

**JUKI**  
*Mind & Technology*



— 選ばれるソリューションパートナーへ —  
**80th**  
Global & Innovative



JUKI株式会社は、2018年12月15日に創立80周年を迎えます。

これもひとえに、弊社を支えてくださったお客様、お取引先、株主や地域社会の皆様をはじめ、全てのステークホルダーの方々のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

弊社は1938年に東京重機製造工業組合として発足し、戦後の混乱を経ながらも、それまでに培った「ものづくり」の力を活かし家庭用ミシン、工業用ミシンの開発・製造・販売を始めました。

80年の道のりは平坦ではありませんでしたが、「技術開発型企業」としてお客様のニーズを捉え、一貫してイノベティブな製品を世に送り出してきました。現在では工業用ミシン、家庭用ミシン、産業装置などの製品とパーツを世界180カ国以上のお客様へお届けし、グローバルな技術サービス体制を整えた企業へと発展してきました。

そして今、お客様の更なる付加価値向上を実現するため、ICTの活用によるソリューションの展開をスタートする一方、お客様のものづくりをサポートする「グループ事業」を展開するなど、事業領域の拡大に取り組んでいます。

私たちは80周年を期に「GLOBAL & INNOVATIVE ～選ばれるソリューションパートナーへ～」をキーワードとし、次なる100周年へ向け、スマートソリューションの展開を軸に、お客様に「安心」と「感動」をお届けできる企業として更なる成長を目指して参ります。今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
清原 晃



# 80周年の取り組み・歩み

JUKI創立80周年イヤーの2018年は、お客様へ感謝をお伝える1年、そして、次の100周年へ向けて事業基盤の強化を行う1年として、様々な取り組みを行います。

## 80周年ロゴ



本業の中でしっかりと80年企業として誇れる姿を実現し、お客様へ還元していく

### キャッチコピーに込めた思い

JUKIを表わすキーワード「グローバル」と「イノベティブ」をベースに、2017年から2022年までの中期経営計画ビジョン“お客様に選ばれる高品質な製品・サービスを提供しつづける企業”、基本方針“ソリューション営業での企業価値創造力の強化”の2つの思いを「選ばれるソリューションパートナーへ」に込めました。

### デザインコンセプト

リボンをモチーフに、お客様との誠実なつながりを表現しました。また、青から緑のグラデーションは、環境配慮や周囲への尊重を意味します。

## 取り組み内容



## リレーションシップ強化

- 1 展示会・個展を通じて“JUKI創立80周年”をアピール
- 2 感謝パーティーの開催(各販売会社)
- 3 感謝ツアーの実施(各販売会社)
- 4 ホームページのリニューアル、80周年特設ページの開設
- 5 株主総会
- 6 OB会・OB交流会
- 7 納涼祭・秋実祭・社内懇親会
- 8 80周年リーフレットの発行
- 9 JUKI本社エントランス展示コーナーの一新



① 展示会で80周年をPR(家庭用ミシン)



② お客様への謝恩会(産業装置)



④ ホームページ80周年サイト



⑨ 本社エントランス展示コーナー一新

## 中期経営計画達成の推進力強化

- 1 縫製スマートファクトリーのデモライン設置(大田原工場内)
- 2 「見える実装」ラインの設置(JUKI産機テクノロジー内)
- 3 JUKI History Museumの新設とショールームのリニューアル(大田原工場内)
- 4 JUKI PR 80周年映像の作成



① 縫製スマートファクトリーのデモライン



② 「見える実装」ライン



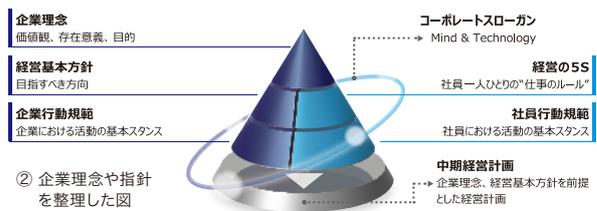
③ JUKI History Museum



④ JUKI PR 80周年映像

## 意識改革・風土改革

- 1 80周年史の発行
- 2 企業理念、行動規範、経営の5S等を体系的に整理
- 3 One JUKI プロジェクト
- 4 新グループウェアの導入
- 5 工場と本社の交流会
- 6 JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUM 2018の開催
- 7 ユニフォーム統一(本社・国内各工場)



③ One JUKI プロジェクト活動



⑦ 新ユニフォーム

# 80周年の取り組み・歩み

守りと変革、80年の中で変わらないこと、変わったことを振り返ることで、いま一度創業の精神に立ちかえり、今も私たちに継承され息づいているDNAを未来へと引き継ぎます。

## 変わらないこと

### 「JUKI」ブランド

社名が東京重機工業(株)であった1947年、JUKI初のミシンから用いられていたのがアルファベットの「JUKI」です。以来、国内外を問わず全ての製品に「JUKI」が付けられ、世界のブランドに成長しました。「JUKI」は、企業活動全般にわたりお客様の期待に応える「信頼」の証であり、社員の誇りです。

### コーポレートスローガン Mind & Technology

第三代社長の山岡憲一が、常々社員に向けての指針にしていたのが「心と技術」です。JUKI創業50周年を機に「Mind & Technology」へ表現を変え、コーポレートスローガンにしました。お客様と心を通わせ、声に耳を傾け、その技術の実現に向け努力する姿勢が込められています。

### 顧客第一主義

「お客様がお困りのことを解決する」ことが、顧客第一主義の姿勢です。JUKI製品の多くは工場で使用される生産財のため、「お客様のラインを止めない」ためのサポートや工場全体の生産性向上支援など、昔も今も一歩先のソリューション提案を通じて、お客様とともに問題解決に当たります。

### 品質重視

JUKIの製品は、世界中のどんな環境下でも、安定して稼動することが求められます。耐久性、安全性などに係る様々な試験を通じて、「100%良品出荷」を貫いています。また、約50年前から取り組んでいる「QC活動」は、グローバルでの「JGQMF」に引き継がれ、今も継続しています。

JGQMF: JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUMの略

### ものづくりへの思い

業界を牽引するリーディング企業として、「世界初の機構」への挑戦を続けてきました。工業用ミシンにおける自動糸切り機構、家庭用ミシンにおける自動糸調子機構、産業装置におけるモジュラーコンセプトなど。現在もスマート化提案に向けたイノベティブなチャレンジは続きます。

### グローバル化意識

創業から9年後に輸出を開始し、当時から視線は「世界」に向けられていました。1970年の香港の販売会社を皮切りに、世界各地に販売拠点を設立し、今も広がっています。180カ国以上のお客様に製品をお使いいただくグローバル企業として、お客様に安心と感動をお届けできる企業を目指します。

# 変わったこと

事業拠点



従業員数



資本金



売上高



海外販売比率



本社の移転



# 80周年の取り組み・歩み

“日本から世界180カ国へ”グローバル化の歩みをまとめました。  
また、創業より、「技術開発型企业」としてお客様のニーズを捉え、  
一貫して取り組んできたイノベティブな製品の歴史を振り返ります。

## 1940s

## 1950s

## 1960s

## 1970s

## 1980s

### 東京重機工業株式会社

**1938**  
東京都の機械業者  
が出資「東京重機  
製造工業組合」  
発足



**1945**  
ミシン製造業転換  
への許可がおりる

**1947**  
家庭用ミシン  
第1号機完成  
(HA-1)



**1953**  
工業用ミシンに  
参入、第1号機を  
発売(DDW-II)



**1957**  
単軸回転天秤発明  
恩賜発明賞を受賞



**1961**  
電子計算機周辺  
機器の製造販売を  
開始



**1964**  
東証第一部に  
上場

**1970**  
JUKI初の海外  
販売会社を香港に  
設立  
(現・JUKI  
(HONG KONG)  
LTD.)



**1971**  
栃木県大田原市に  
工業用ミシンの  
製造工場  
「大田原工場」竣工



**1972**  
西ドイツに  
ヨーロッパの拠点  
となる販売会社を  
設立  
(JUKI (EUROPE)  
GMBH)



**1974**  
アメリカに販売  
会社を設立  
(現・JUKI  
AMERICA, INC.)



**1981**  
工業用ミシン本部  
がデミング賞受賞  
(実施賞事業部賞)



**1987**  
SMTの分野に参入  
(産業装置事業)  
1号機の製造販売  
を開始  
(KP-350)



**1988**  
JUKI株式会社  
社名変更



### 家庭用ミシン沿革

**1947**  
HA-1



**1953**  
ロータリックス  
HW-62B



**1959**  
ロータリックス  
HZ-25



**1965**  
ロータリックス  
HZD-731



**1968**  
2色同時  
編込装置付編機  
K-811



**1977**  
フルフル  
HXL-11



**1978**  
電子フローラ  
HXL-550



**1985**  
ザ・ミシン  
HXL-7000



**1988**  
ザ・ミシン創ing  
HXL-8800



### 工業用ミシン沿革

**1953**  
本縫ミシン  
DDW-II型



**1958**  
大門止めミシン  
LK-23



**1964**  
インターロックミシン  
MO-357  
オーバーロックミシン  
MO-352



**1969**  
本縫自動糸切ミシン  
DDL-555-II



**1979**  
本縫ボタン付ミシン  
LK-982



自動玉縁縫機  
APW-116



**1986**  
ジューキ  
ハンガーシステム  
JHS-201



**1987**  
クイックレスポンス  
ソーイングシステム  
QRS



### 電子・産業装置沿革

**1964**  
カード穿孔機  
H-163



**1973**  
カード穿孔機  
H-1592



**1976**  
ラインプリンタ  
5240



**1982**  
データエントリー装置、  
漢字キーツフロッピー  
1860



**1988**  
エントリー機  
(導入用)  
KP-350



## 1990s

## 2000s

## 2010s

### JUKI株式会社

**1990**  
 JUKI初の海外工場を中国上海市に合併で設立 (家庭用ミシン製造工場・上海重機ミシン)



**1995**  
 シンガポールにアジア販売を統括する会社を設立 (現・JUKI SINGAPORE PTE. LTD.)



**1995**  
 中国に工業用ミシンの部品製造・調達を行う会社を設立 (現・重機(寧波)精密機械)



**2000**  
 全額出資の工業用ミシンの製造工場を上海に設立 (重機(上海)工業)



**2001**  
 中国を統括する全額出資の子会社を設立 (重機(中国)投資)



**2005**  
 ポーランドにヨーロッパの販売統括拠点を設立 (JUKI CENTRAL EUROPE SP.ZO.O.)



**2009**  
 多摩市鶴牧に建設した新社屋へ移転 (12月)



**2013**  
 産業装置部門を独立させJUKIオートメーションシステムズを設立

**2014**  
 JUKIオートメーションシステムズとソニーイーエムシーエスの実装機器事業部門を統合

**2017**  
 秋田3社を統合して「JUKI産機テクノロジー」を発足



**1994**  
 中国に販売会社を設立 (東京重機国際貿易(上海))

**1995**  
 工業用ミシンの製造工場を合併で中国廊坊に設立 (新興重機工業)



**1997**  
 工業用ミシンの「下糸自動供給装置」の開発が機械振興協会賞を受賞



**1995**  
 ベトナムに工業用ミシンの部品工場を設立 (現・JUKI (VIETNAM) CO.,LTD.)



**2015**  
 日本とベトナムにある製造工場のものづくり力を結集させ、グループ事業を開始



**1990**  
 シュプール90 TL-90



**1993**  
 アローネ HZL-008



**1997**  
 jupre HZL-009



**2001**  
 ジュレープ HZL-010



**2003**  
 家庭用 コンピューターミシン HZL-E60



**2005**  
 ロックミシン RS-10



**2009**  
 エクシード キルトスペシャル HZL-F600JP



**2013**  
 ロックミシン シュルル MO-1000ML



**2015**  
 キルト専用ミシン フレームタイプ TL-2200QVP



**2017**  
 HY-SPEC SL-700EX



**1995**  
 自動玉縁縫機 APW-296



**1996**  
 ほつれ防止単環ボタン付 MB-377



ドライヘッド本縫自動糸切ミシン DDL-5700N-7



**2000**  
 ドライヘッド電子単環ボタン付 MB-1800S



**2003**  
 ドライヘッド オーバーロック MO-6100D



**2004**  
 単環根巻きボタン付 AMB-289



**2007**  
 斜めポケット付自動玉縁縫機 APW-896



**2010**  
 1本針ベルトループ付ミシン AB-1351



**2016**  
 デジタル本縫自動糸切りミシン DDL-9000C



**2017**  
 1本針 CNCミシン AMS-251



**1992**  
 大型汎用機 KC-810



**1994**  
 半自動スクリーン印刷機 KS-180



**1997**  
 高速チップマウンタ KE-750  
 高速汎用マウンタ KE-760



**2000**  
 高速チップマウンタ KE-2010  
 高速汎用マウンタ KE-2020



**2004**  
 高速モジュラーマウンタ FX-1



**2008**  
 高速モジュラーマウンタ FX-3



**2011**  
 後工程マウンタ マルチタスクプラットフォーム JM-10



**2013**  
 高速コンパクトモジュラーマウンタ RX-7



**2014**  
 自動倉庫インテリジェントストレージ マネジメントシステム ISM2000



**2017**  
 高速スマートモジュラーマウンタ RS-1



# 事業領域

## CONTENTS

### JUKI 80周年

- JUKIの思い ..... 2
- 80周年の取り組み・歩み ..... 4

### JUKIとは

- 事業領域 ..... 10
- JUKI製品を使ってつくられるもの ..... 12
- 社長インタビュー ..... 14
- JUKIの企業価値創造 ..... 20

### JUKIの事業

#### 縫製機器&システム事業

- 工業用ミシン事業 ..... 22
- 家庭用ミシン事業 ..... 26

#### 産業機器&システム事業

- 産業装置事業 ..... 28
- グループ事業 ..... 32
- カスタマービジネス ..... 34

### JUKIの価値創造

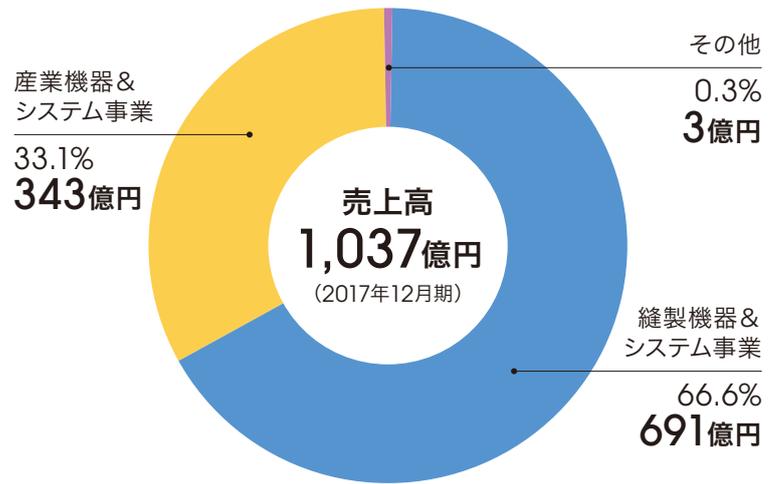
- 技術開発力 ..... 36
- 生産力 ..... 38
- ステークホルダーとともに ..... 40
- 環境に対する取り組み ..... 46
- コーポレート・ガバナンス ..... 50

### データセクション

- 財務データ ..... 52
- JUKIのグローバル拠点 ..... 56
- 会社概要および株式情報 ..... 58

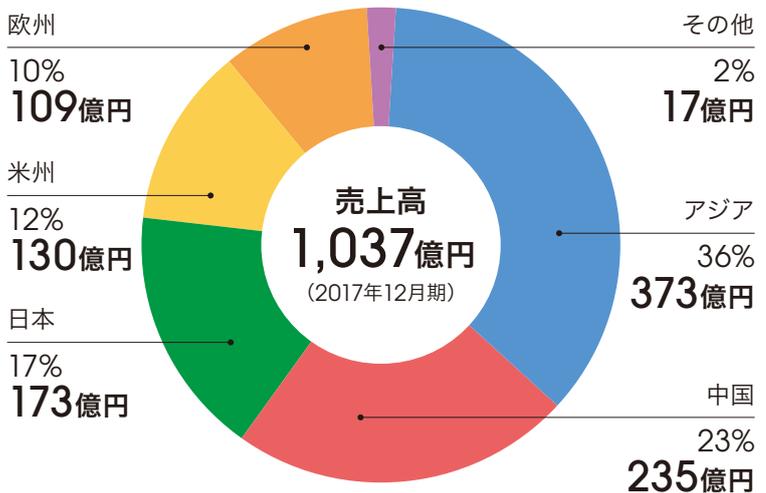
## 事業別売上高割合

JUKIは先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



## 地域別売上高割合

世界約180カ国をカバーする販売・サービスネットワークで、世界中のお客様から強い支持をいただいています。



# 世界のお客様のイノベーションに貢献する JUKI Smart Solutions

## 縫製機器 & システム事業

2,000機種以上のマシンやシステムで、プロ用から趣味層まで、あらゆる“縫い”をサポートする事業です。

### 工業用マシン事業



縫製機器の業界を牽引する世界トップのリーディング事業

世界トップシェアの工業用マシンを中心に、自動化装置・ITシステムなどと組み合わせて、最適な縫製工場作りをお手伝いさせていただく事業です。生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上などに、ラインソリューションでお応えします。

### 家庭用マシン事業



Home Sewerの創造性を刺激する製品を提供する事業

工業用マシンの性能を取り入れた確かな製品力で、快適なソーイングライフをサポートする事業です。様々なワークショップを開催し、幅広い分野の趣味層を応援します。

## 産業機器 & システム事業

永年培った“ものづくり力”を生かし、製品やシステム、開発力・製造力でお客様の生産工場をサポートする事業です。

### 産業装置事業



基板製造工場をトータル・ソリューションでサポートする事業

電子基板生産における表面実装装置や印刷機、検査機などの関連商品を中心に、多様化する生産ニーズに生産性・効率化を追求したラインソリューションでお応えする事業です。

### カスタマービジネス



世界中で活用されるJUKI製品の修理サポートやパーツ供給を行う事業

世界180カ国で活用されている工業用マシンと産業装置の消耗品や補用パーツのご提供や、アフターサービスを通じて、より良い環境でご使用いただけるように、サポートする事業です。

## グループ事業

### グループ事業(受託開発・製造事業)



「人・設備・方法・材料」の総合力で製造会社をサポートする事業

JUKIグループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを生かして、さまざまな製品の開発・製造・加工などを受託する事業です。

### スリープバスター



安全な走行をサポート  
居眠り運転警告装置やそのデータを

を活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

### データエントリーシステム



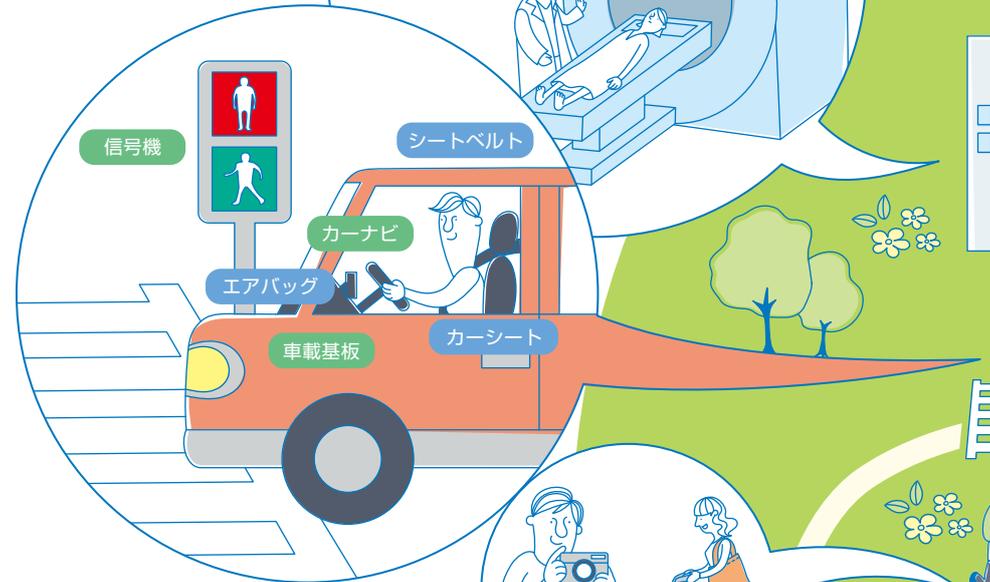
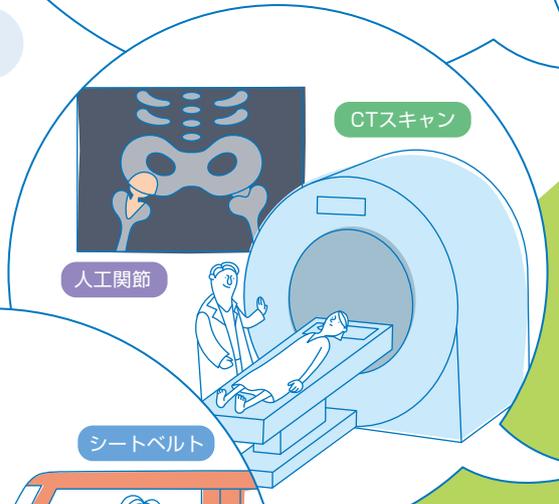
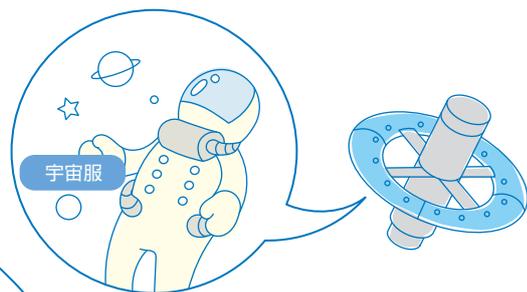
データ入力のプロをサポート  
工夫された入力システムで、大量の

データを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

# JUKI製品を使ってつくられるもの

## JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています

- 工業用マシンを使ってつくられるもの
- 家庭用マシンを使ってつくられるもの
- 産業装置を使ってつくられるもの
- グループ事業によってつくられるもの







JUKI株式会社  
代表取締役社長  
清原 晃

## 社長インタビュー

# イノベティブな時代の潮流を先取りし、世界中のお客様の経営課題にスマートなラインソリューションで応える

中期経営計画「Value up 2022」の初年度であった2017年度は、前期比で増収増益を達成し、計画達成に弾みをつける1年となりました。JUKIの現在の取り組みと中長期の成長戦略について、JUKIの若手社員5名が清原社長にインタビューをしました。



### ●インタビューー

## 働き方を変革し、世界のものづくりを変える Smart & Connectedの思想

— 2017年度の連結業績は増収増益となりましたが、この1年の業績と取組内容について、清原社長はどの様に考えていますか？

2017年度は売上高が1,037億円、経常利益78億円、当期純利益が56億円で増収増益となりました。特に経常利益、当期純利益は前年度を大きく上回る結果となりました。

2017年度の取り組みの一つ目は、前年度に産業装置部門が赤字であったことや、縫製機器の売上が低調であったことを受け、**2017年度は“収益重視の経営”を心がけました。**産業装置部門については、構造改革を推進し、固定費を削減した結果、売上、利益ともに大幅に改善しました。また新型マウンタや省力化装置など、**お客様のスマートファクトリー構築に貢献する付加価値の高い機器を積極的に展開した**ことは、大きな成果のひとつと考えています。

受託加工を手がけるグループ事業も、国内外の製造グループ各社のものづくり力とその協力会社を含めたネットワークを活用して拡販に取り組んだことで、**売上高が初めて100億円の大台を突破**しました。

縫製機器事業については、**欧米や中国などのハイエンド市場で大手のお客様との取引が拡大し、高付加価値製品の拡販に努めた**ことで、利益が前期比で38%増加しました。収益重視の経営により、数多くの成果を残すことができた意義ある1年だったと思います。

取り組みの二つ目は、**JUKIの事業を“再定義”**したことです。製造業をめぐる環境は日々変化し、IoTやICTといったイノベーションが製造業の在り方を根本から変えようとしています。JUKIはこうした時代の潮流を先取りし、お客様にトータルなソリューションを提案することを目的に、**2017年度から事業セグメントを「縫製機器&システム事業」と「産業機器&システム事業」に再編**しました。

縫製ラインや実装ラインなど、お客様の生産ラインについて自動機の導入やラインバランスのための改革を提案していくことに加え、マシンやマウンタの装置間の搬送の自動化など、**付加価値の高いソリューションをシステムで提供**していくことで、他社との差別化を図っています。JUKIには、それを実現する製品のラインナップが他社には負けないくらいあります。お客様に本当に役に立つ付加価値の高いラインソリューションを提案して、お客様にそれを使ってもらうことによってお客様の生産性が上がり、作業性が上がる。製品・サービスの付加価値を創造し、将来の顧客基盤を増やしていくことに繋がります。**事業分野を問わず、お客様の経営課題にスマートなラインソリューションを提供していくことがJUKIの果たすべき使命**だと考えています。



2012年入社  
廣澤 佑一郎

2013年入社  
岡田 由貴

代表取締役社長  
清原 晃

—2017年度が終わり、より鮮明になってきた経営課題についてお聞かせください。

反省点として挙げたいのは、縫製機器&システム事業の売上がわずかながら減少したことです。中国企業との競争が激化したことなどから、アジアのミドルマーケットで苦戦が続きました。JUKIの製品は高品質で知られていますが、その分、競合他社より高めの価格設定となっていることや、現地ニーズと機能の間でミスマッチも起きているのではないかと考えます。2017年度は、産業装置やグループ事業は新しいお客様を獲得できたことで業績を伸ばしました。**縫製機器&システム事業でも同様に、市場ニーズに合った事業戦略を展開することによって、新規顧客の開拓を進めていく必要があります。**

## 2020年ビジョン

お客様に選ばれる  
高品質な製品・サービスを  
提供しつづける企業

世界中のお客様へ  
「感動と安心」をお届けしよう!!

—2017年度は中期経営計画「Value up 2022」の1年目でした。目指す目標を改めてお聞かせください。



JUKIでは、「お客様とJUKIが製品・サービスを通じて企業価値の向上ができるものづくり企業」を<2022年ビジョン>として定め、2017年度からビジョン実現に向けた取り組みをスタートさせています。2017年度から2019年度の最初の3年間は、**2019年度のビジョンを「お客様に選ばれる高品質な製品・サービスを提供しつづける企業」とし、**私たちが目指す姿として、成長性、収益性、安定性の3つの観点からそれぞれ目標数値を定めました。成長性では毎年9%以上の増収を、収益性では2019年度の経常利益率6%を、安定性では自己資本比率30%以上をゴールとしています。2017年度は、連結売上高こそ前期比6.1%の増収と目標にはわずかに届きませんでしたが、経常利益率は7.6%を記録しています。**計画目標の達成に向けて確かな手応えを感じる1年となりました。**



2015年入社  
杉田 美樹

2011年入社  
橘 陽一郎

2011年入社  
早乙女 慧

——中期経営計画2年目がはじまり、あらたな3年間(2018年-2020年)の中期計画『行動指針』に「健康経営と環境経営の実践」を追加された狙いをお聞かせください。

JUKIグループは、「イノベティブで活気ある人と組織をつくること」を経営基本方針の一つに掲げています。JUKIが持続的に成長するためには、従業員一人ひとりの心身の健康が欠かせません。こうした経営姿勢を内外に示すために、2017年9月に健康経営宣言を公表しました。強調したいのは、宣言の公表が若手社員の参画する「OneJUKIプロジェクト」の提言に基づいているということです。JUKIの将来の針路について若い社員が積極的に関心を持ち提案していることを心強く感じています。

環境については、これまで「JUKI環境方針」に基づいて廃棄物の削減や省エネルギー、資源の有効活用、グリーン調達などを毎年目標化して取り組んできました。昨今は中国において微小粒子状物質(PM2.5)の削減が目標化されるなど、環境負荷低減への取り組みを一段と強化することが各企業に求められています。海外の工場についても年々環境規制が厳し

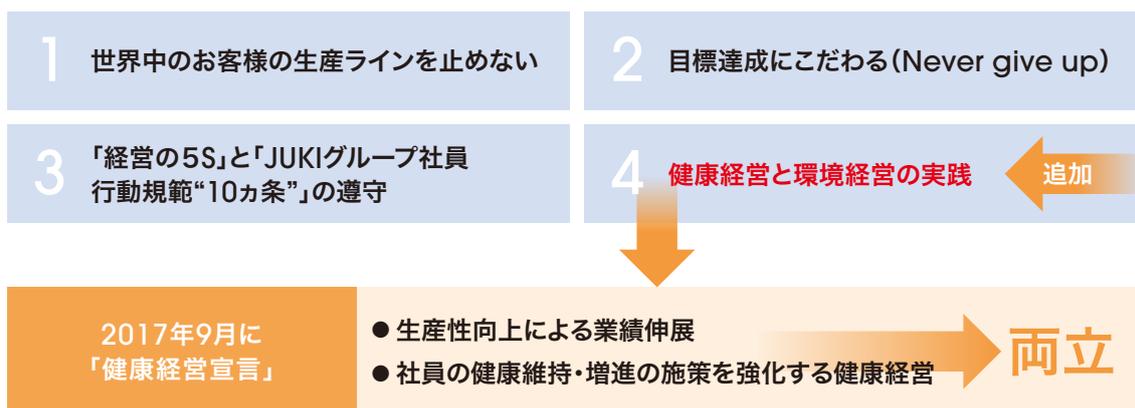
くなってきており、各工場が常にそのレベルをクリアしている必要があります。こうした社会的要請に応えるために、今回、中期経営計画にも敢えて環境経営の文言を追加し、地球環境を守って社会に貢献する企業であることを宣言しました。

——中期経営計画の5つの基本方針の『事業戦略』に「市場開拓による将来の顧客基盤構築」を追加し、6つの基本方針とされた目的をお聞かせください。

JUKIが将来にわたって発展していくためには、新たな事業領域を開拓・深耕して、顧客基盤を拡充することが必要なため、「市場開拓による将来の顧客基盤構築」を中期経営計画の基本方針に追加しました。

産業装置事業の具体的なターゲットはLEDと車載関連を考えています。従来の白熱灯に替わってLED照明が一般的になってきましたが、膨大な人口を抱える中国やインドが本格的にLEDに移行するのはこれからです。こうした市場の拡大に対応してLED向けのマウンタなどの製品に注力していく計画です。

## 2018-2020中期計画 行動指針



また、各種電装基板やカーシート縫製など、私たちの事業の共通マーケットとして車載関係が重要性を高めてきました。自動車産業ではいま、電気自動車(EV)や自動運転など、次世代技術が急速に進展していて、JUKIが貢献できる領域が着実に広がっています。

さらに縫製機器事業は、**成長性のあるアジア・アフリカ等のミドルマーケット開拓に経営資源を積極的に投入することにより、顧客基盤を拡大し将来の成長をより確かなものとしていきます。**

——中期経営計画の『体制戦略』に追加された「プロセスのSmart & Connected化」のコンセプトについてお聞かせください。

これからの時代には**スマート(賢いツールや手段を使う)で、コネクテッド(横連携や水平展開する)な経営の枠組、業務運営の仕組が必須**だと考えています。例えば、社内においては従来、開発、生産、販売、管理などの各部門がそれぞれ部門毎に最適を追求してきました。特に製造業においては、自分の工程の仕事をキッチリこなして次の工程に渡す、という文化が定着しています。しかし経営体制を進化させるためには、**製品のサプライチェーンマネジメントの高度化はもちろん、各部門の仕事においても有機的に連携し、全体最適を目指すことが必要**です。スマートなツールを使って、社員一人ひとりが工程全体を把握して、自らの仕事に取り組む働き方に転換しなければなりません。また、作業をキッチリ行なうだけでなく、その作業をスピードアップする、或いは深く分析することによって、初めて付加価値の高い仕事となります。それが生産性の高い一人ひとりの働き方だと思います。

また、お客様に対する**営業の提案活動においてもSmart & Connectedの考え方が重要**になっています。お客様工場の縫製ラインには、裁断したり、部品をつくったりという前工程があります。そして現在は検査検品などの後工程にも多くの人員が投入されています。裁断や検査を含めた**生産ライン全体の省力化や生産性向上を提案**することで、**お客様のスマートファクトリー実現に貢献していくことが必要**となってきています。

——2018年度の環境認識と各事業の取り組みについてお聞かせください。

2018年の世界経済は緩やかに成長していくものと見ています。またIoTやAIなどの**技術的なイノベーションが産業界に浸透し、お客様の生産性向上に対する取り組みも本格化**してくるでしょう。かつて通話のための携帯電話=「もの」が、スマートフォンに進化することで、インターネットで買い物等が可能=「こと」となったように、技術革新の「もの」から「こと」への動きは更に加速していくと思います。そこに私たちにとっての大きな**ビジネスチャンス**があると考えています。一方、新興国の景気減速懸念や為替の変動など、業績を左右する変化が生じる可能性も無視することはできません。**事業環境の変化を的確に捉え、業容の拡大と収益力の強化に適進していくことが必要**です。

まず、**工業用ミシン**については、新興国を中心に未開拓のマーケットや地域の顧客開拓をすすめていきたいと考えています。最適な拠点及び人材がそのマーケットを担当して開拓していくこととします。また、営業活動も、縫製ラインだけではなく、前工程、後工程まで含めて事業領域を拡大していくことに注力したいと考えています。

創業の**ビジネス**である**家庭用ミシン**については、今後も

## 2018-2020中期計画 基本方針

事業戦略	体制戦略
1 ソリューション営業での価値創造力の強化	4 ビジョンを実現するグローバルでイノベティブ(革新的)な人材の育成と活用
2 <b>市場開拓による将来の顧客基盤構築</b> ←追加	5 <b>スマートな事業基盤の構築(プロセスのSmart &amp; Connected化)</b> ←追加
3 将来を見据えたビジネスカテゴリーの創出と強化	6 財務体質の強化による自己資本の積上げ



工業用ミシンの技術を横展開するなど、従来以上に力を入れていきたいと考えています。高品質・高機能というJUKI製品の特長を活かすため、特にヘビーユーザー向けを中心に拡販を図っていく考えです。

**産業装置事業**については、これまでも前工程や後工程まで事業領域を広げて来ました。お客様工場へ納入した設備が24時間稼働している中で、マシンから情報を取り、リモートでメンテナンスしていく、AIを使い予防保全を行なうなど、進化したインベティブな技術を実際のサービスに組み入れることを考えたいと思います。

**グループ事業**については、検査装置、医療装置、ロボット関連などを重点分野として市場開拓を進め、3年後には売上高150億円を目指したいと考えています。独自製造技術や独自製品の商品化、設計から組立まで一気通貫の受託サービスを通じて、第3の事業の柱に育てたいと考えています。

**カスタマーサービス**に関しては、引き続き世界中のお客様へのパーツの迅速な供給に努めると同時に、Webサイトによるダイレクトな取引も拡大していく計画です。過去の部品取引で蓄積した豊富なデータを駆使して、各パーツの使われ方や耐用年数に応じた効率的な供給システムを確立するとともに、パーツセンター業務の自動化にも取り組んでいきます。

また2018年1月に**新設したイノベーション推進室の役割発揮にも注目**しています。JUKIにとっての具体的なイノベーションを発掘し、社内に新風を吹かせ、インベティブな企業風土の醸成に貢献してくれるものと期待しています。

——今年12月15日にJUKIは創立80周年を迎えますが、社長の想いをお聞かせください。

JUKIは、お客様、取引先、株主の皆様、地域社会の篤い支援や、社員の懸命な働きのもとで80年の歴史を刻んできました。80周年に当たっては様々な場面でJUKIブランドを育て、

これまで支援いただいた皆様に感謝申し上げたいと思います。

またJUKIが、今後90周年、100周年に向けて力強く成長していくためには、経営のあらゆる側面において、将来を見据えた先行投資を推進していくことが不可欠です。新製品や新技術を創出するための戦略的な開発投資を継続するとともに管理部門のグローバル化を進めるためのIT投資を実行し、付加価値の高い業務体制や働き方の仕組みづくりにも注力します。

**全社員が一体となってJUKIをスマートな会社にしていく、そして80周年記念のキャッチコピー「選ばれるソリューションパートナーへ」を実現**していく、この先頭に立つことが社長としての責務だと認識しています。

——最後に、JUKI社員に期待することをお聞かせください。

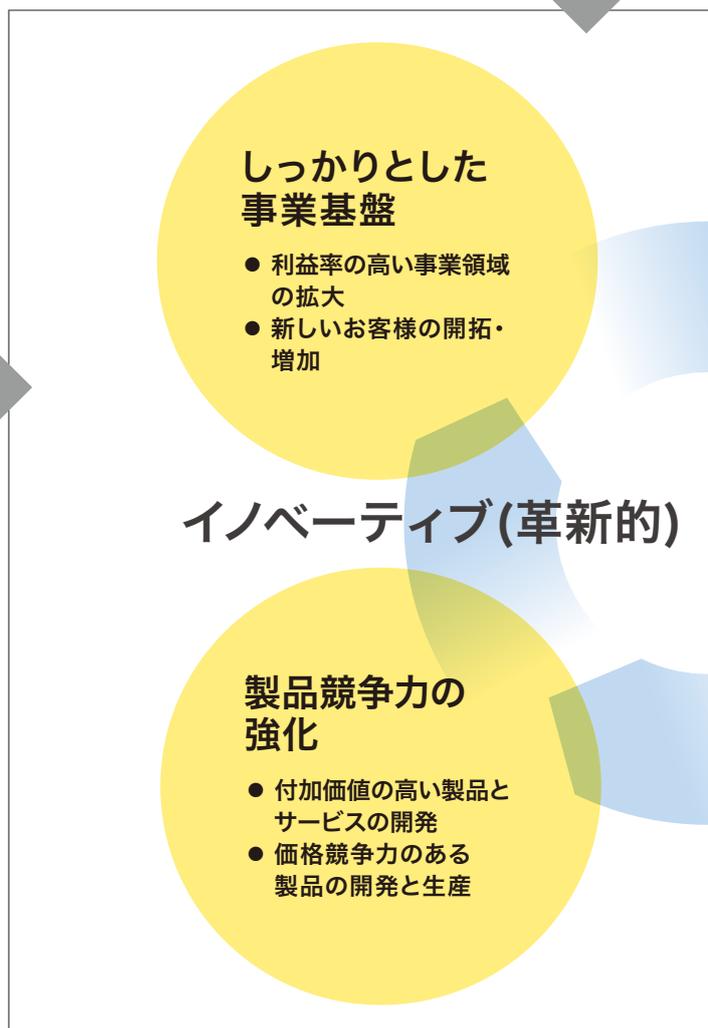
JUKIの最大の資産は社員です。特に次世代を担う若手社員の育成は、最も重要な経営課題と言っても過言ではありません。若手社員一人ひとりが一段とパワーアップできるよう、語学研修や自己啓発プログラム、e-ラーニング等の諸ツールを活用して支援していきたいと考えています。また、「One JUKIプロジェクト」のような若い人たちの声を経営に反映させる仕組みをさらに拡充するほか、**毎日の仕事の中で年齢に関係なく、自由にアイデアを提案できるような開かれた企業へ改革を進めたいと考えています。**

もちろん、人材の強化・育成は若手社員に限った話ではありません。ベテラン社員はもとより、工場の従業員や販売会社の社員、海外拠点のナショナルスタッフなどを含めたJUKIグループのすべての人たちを対象に、その背中を押すような人事政策と人材投資を実行し、JUKIの継続的な成長と企業価値の最大化を目指していく決意です。

これらを通じて、**社員の皆さんには、現在の働き方を改革し、生産性を上げて、付加価値の高い仕事をして欲しい**と思います。共に頑張りましょう。

# JUKIの企業価値創造フロー（ビジネスモデル）

JUKIは、3つの「経営の重点」により、お客様、お取引先、株主・投資家、社会、従業員といったステークホルダーに対し、企業価値創造に取り組んでいます。そして、JUKIの成長サイクルにより、イノベティブで活気のある企業を実現し、JUKIの企業価値創造の力をさらに高めていく取り組みを行っています。





### グループ事業

▶P.32

国内製造グループ会社の高度な技術力を結集させ、新たな価値創造を目指す事業



### カスタマービジネス

▶P.34

世界180カ国で活用されているJUKI製品の修理サポートやパーツ供給を行う事業

## 収益力の向上

- スマートな事業基盤の構築
- 製品原価の低減
- 財務基盤も強化

## で活気のある企業

## 成長投資の拡大

- 先端開発のための積極投資
- 生産現場スマート化のための設備投資
- 人材育成のための投資

## ステークホルダーへの価値創造

### お客様 ▶P.40

- 競争力向上への貢献
- トータルなソリューション提案
- グローバルなサポートなど



### お取引先 ▶P.42

- 共存共栄
- 切磋琢磨し、共に成長していける関係の構築など



### 株主・投資家 ▶P.42

- 財務体質の改善
- 株主価値向上
- 安定的な配当など



### 社会 ▶P.43

- 地域社会との交流
- 他国の文化を尊重し、現地の発展に貢献
- 環境問題への取り組みなど



### 従業員 ▶P.44

- 活気ある組織・風土
- 従業員満足度の向上など



# INDUSTRIAL SEWING MACHINES BUSINESS



## 工業用ミシンの製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点



# 180カ国のお客様をカバーするネットワークで、縫製産業を支える「世界シェアNo.1」事業

最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現し、世界の縫製産業を幅広く支えるJUKIの工業用マシン。

直線縫い、ジグザグ縫い、ボタン付けなどそれぞれの専用縫いを追及したマシン、縫製アイテムや素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルマシン、複数の工程をスイッチ一つで行う自動機マシンなど、幅広いラインナップで縫製ラインをワンブランドで揃えることができます。また、IoTを活用し、これらの機器をネットワークで繋ぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを構築しています。

JUKIは「Smart Solutions」のキーワードのもと、革新的かつ高精度な技術でお客様のご要望に応え、それらをラインソリューションとして提案し、お客様の課題を解決します。



## Customer Solutions

### 1. ワンブランドでのライン構築

JUKIの工業マシンのラインナップは約2,000機種にも上ります。その種類は縫製する素材・用途によって、布帛用、ニット用、ノンアパレル用、複数工程を1台で完了する自動機など多種多様です。縫製品質、脱技能、生産性を追求した幅広いラインナップで、お客様のニーズに沿った最大限のパフォーマンスを実現するラインソリューションをご提供します。



### 2. お客様個々のニーズに沿ったスマートファクトリーの構築

豊富な製品ラインナップに加え、手作業を補完するロボットの活用や自動化装置などを具現化しています。また、マシンをネットワークで繋ぐことで、各マシンの稼動状況をリアルタイムで確認でき、遠隔での生産管理も可能になります。JUKIは、お客様の「マス・カスタマイゼーション」にお応えし、最適な製品やシステムをラインソリューションとしてご提案することで、工場のスマートファクトリー化を実現します。

### 3. 安定した品質、サポートで安心を提供

JUKIには50年以上の活動実績に裏打ちされた豊富な経験をもとに、お客様工場が抱える諸問題についての的確にサポートするプロ集団を世界各地に配置。安定した品質や生産性が求められる縫製工場において、トラブル時の対応のみならず技術指導やセミナー、生産性向上のコンサルティングなど、最強のカスタマーサポートでお客様を支えます。



JUKIの事業

## Products



ダイレクトドライブ高速本縫自動糸切りソーイングシステム  
DDL-9000C



セミドライヘッド・シリンダーベッド型片面飾り偏平縫いマシン  
MF-7900D



セミドライヘッド高速総合送り水平大釜糸切りソーイングシステム  
LU-2828V-7



1本針CNCマシン  
AMS-251

# 工業用ミシン事業

## 先進技術でお客様の縫製ビジネスを進化させる

JUKIはお客様が抱える様々な課題に、製品のさらなる進化とシステム化、IoTの活用など、イノベティブな取り組みで最適な工場ライン作りをお手伝いさせていただく活動を進めています。

### お客様が抱える課題



### 縫製工程以外の製品もご提供

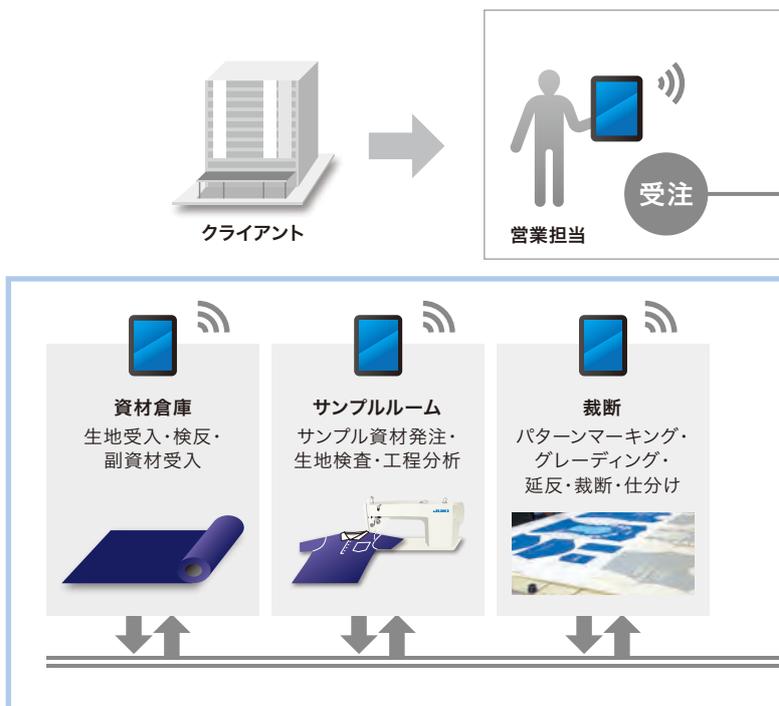
縫製の前工程で使用されるプリンター、転写機、自動裁断機、溶着機などをご提供します。プリント～裁断～縫製とつなぐことで、ワンストップ・ラインソリューションが可能になります。



### JUKIが提案するSmart Factory

縫製アイテム、素材の変更などにアクティブに対応できるデジタルミシンを中心に、複数の工程を1台で完結する数多くの自動機ミシンに加え、人の手作業を補完するロボットの活用などで、生産性向上、省人化、脱技能、働きやすさ、品質向上、省スペース化を実現します。また、IoTを活用し、生産工場内の機器をネットワークで繋ぐことにより、高次元の工場管理ができるシステムを製品化しています。JUKIは、デジタルソーイングシステムと自動機、生産管理システムをアレンジし、トータルプロデュースさせていただくことで、お客様個々のニーズに沿ったSmart Factoryを実現します。

## JUKIが提案する縫製工場のSmart Factory



### デジタルミシン

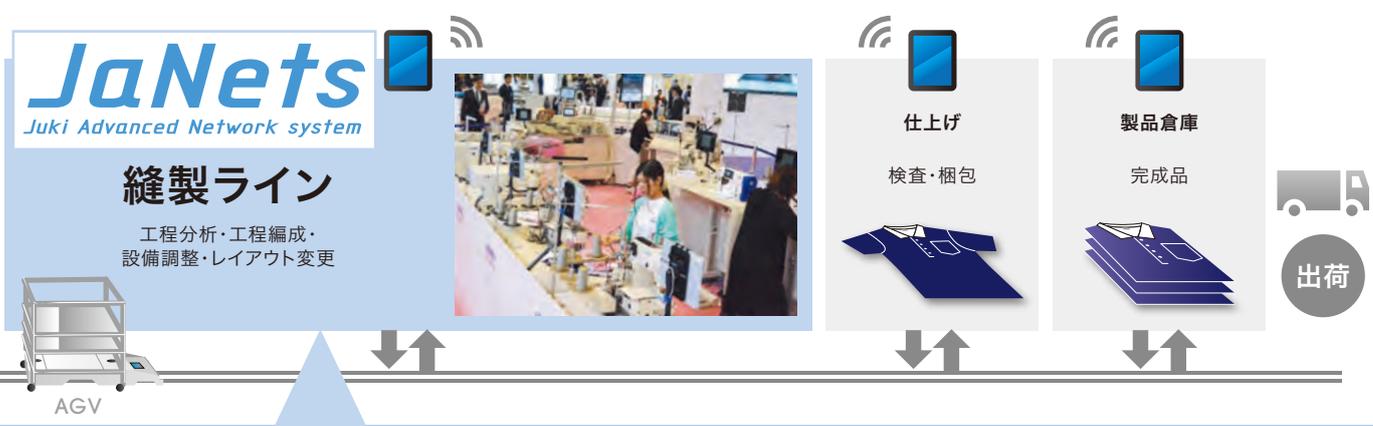
“縫い目”の調整機能をデジタル化し、数値で記憶することができるミシン。調整後のデータは専用アプリを入れたタブレットに記憶させることができ、別のミシンへのデータ転送も可能です。これにより従来、勘や経験に頼っていた縫い調整が短時間で済み、縫いデータの共有化・管理が容易になり、グローバルでの品質の安定化が図れます。



### 自動機

人の手によるハンドリング縫製、ハサミでのカット作業、生地の折り曲げ、いせ込みなど、複数工程をフルオート化したミシンを数多く品揃えています。生地をセットすると記憶させた縫いパターン通りに自動縫製するミシンやカット・縫い・折り曲げを自動で行うミシンなど、生産性の向上や脱技能化が図れます。





### ロボット縫製

ロボットアームにミシンを取り付け、自動車のインストルメントパネルにデザインステッチを3Dで縫製するなど、ロボットを用いた縫製技術を開発しています。縫製物の重量が重い・縫製面積が広い・立体的であるといった場合、オペレータにとっては重労働な上、熟練の縫製技術が必要です。JUKIはイノベティブな技術で個々のお客様にお応えします。



### 自動化装置 (自動搬送装置AGV)

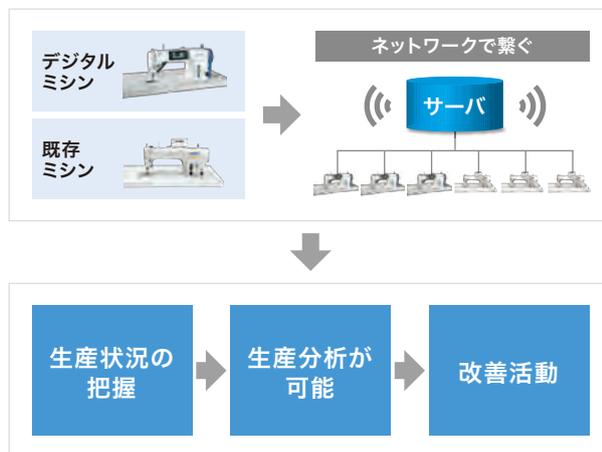
人に頼っていた縫製工場内の搬送作業を自動化する装置です。裁断後のパーツ(生地)や仕掛り中の縫製物、完成品など、工程間を自動搬送します。生産管理システムと連携させることにより、「必要な時」「必要な場所」に「必要な数だけ」届ける仕組みも構築できます。



### 縫製管理システムソフト JaNets

Juki Advanced Network system

ミシンをネットワークに繋ぐことで、各ミシンの稼働情報などの設備データがリアルタイムで見える化され、そのデータを分析することで改善活動に繋げることができます。さらにデジタルミシンを使うと、システムとミシン間で双方向通信ができるようになり、段取り換えの際に縫いの制御情報をミシンにダウンロードすることもできます。今後は予兆管理やトレーサビリティなど“情報”を活用したサポートコンテンツを増やしていく計画です。



# HOUSEHOLD SEWING MACHINES BUSINESS



## 創造性をサポートするミシンで 趣味力の高いお客様 (Home Sewer) と新たな楽しみの創造

家庭用ミシンの総合メーカーとして、家庭用ミシン、職業用ミシン、小型ロックミシン、キルト用ロングアームミシンの全てにおいて、工業用ミシンで培った高精度な技術を取り入れた製品を開発・販売しています。豊富な品揃えと高品質な縫いや使いやすい操作性は、ビギナーからプロの方まで幅広いお客様にご支持をいただいています。これからも本格的なソーイングが楽しめるよう、お客様の視点に立った事業展開を図ります。



### Products



フルサイズ高機能  
コンピュータミシン  
HZL-EX7



2本針4本糸差動送り付き  
オーバーロックミシン  
MO-114D



職業用直線ミシン  
SL-700EX



家庭用キルト専用  
ロングアームミシン  
QL-2200QVP

## Customer Solutions

### 1. 確かな製品・技術

ミシンの本質である“縫い目”にこだわり、ワンランク上の“縫い”をご提供します。厚物や段部乗り越え縫いはもちろん、細かい針基線変更や縫製途中でも縫い目の長さや振り幅の調整も簡単かつスムーズに行えます。縫い目をデザインした「キルト」作品も美しく仕上がります。



### 2. ミシンの楽しさ、使い方をワークショップで展開

ミシンの操作方法や様々な機能の使い方、作品づくりの楽しさを知っていただくために、世界各地で手提げバッグや小物作り、キルト制作のワークショップを開催・サポートしています。JUKIならではの便利な機能を活用し、様々な趣味層の人にマッチさせたマシンソーイングを広げています。



### 3. 世界を網羅する販売・技術サポート

世界に張り巡らせた工業用ミシンの販売・技術ネットワークを活用してお客様をサポートしています。製品の使い方やメンテナンス方法に加え、ミシンの機構や美しい縫い目の作り方など、様々な講習会を開催し「安心」を提供しています。



## TOPICS

### 第17回東京国際キルトフェスティバル2018へ出展

世界最大級のキルト展「東京国際キルトフェスティバル」が開催され、21万人を超える来場者で賑わいました。

JUKIブースでは、中沢フェリーサ先生によるキルト専用ロングアームミシンTL-2200QVPを含む3機種のデモンストレーションの他、HZL-EX7、SL-700EXを使った2つのワークショップを開催。初日から開演と同時にワークショップ申し込みのお客様で長蛇の列ができるほどの好評振りで、体験後には、ミシンをご購入されるお客様もいらっしゃいました。



### 情報発信を拡充させコミュニティ活動を推進

JUKI家庭用ミシンホームページでは、facebook、Youtubeをはじめ、2017年12月よりInstagramも開設し、よりお客様に寄り添った情報発信を拡充しています。

また、本社ショールームを活用した、ミシン無料お試し会やアタッチメント講習会を始め、ソーイング作家の先生方によるワークショップも定期的開催するなど、「もの」から「こと」へ消費が移行する中、お客様と一緒にソーイングの喜び・楽しみを共有できるコミュニティを進めています。



# ELECTRONIC ASSEMBLY SYSTEMS BUSINESS



## 産業装置の製造・販売拠点

- 主要製造拠点
- 主要販売拠点

● JUKI オートメーションシステムズGMBH

● 東京重機国際貿易(上海)有

● JUKI インディア株  
SMT本部

● JUKI SMT アジア株

● JUKI 産機テクノロジー株

● JUKI オートメーションシステムズ株

● JUKI オートメーションシステムズINC

# 基板生産工場を トータルソリューションでサポート

私たちの生活を便利に豊かにしてくれる電化・電子製品や、その製品を生産するための産業用ロボットや装置まで、あらゆる製品に組み込まれ、その製品の頭脳の役割を担うのが「電子回路基板」です。

JUKIは、基板生産装置の総合メーカーとして、市場ニーズを先取りした製品開発を実現する先行研究や、各種試験、手厚い修理サービスなどを通じ、お客様をサポートしています。

JUKIが目指すのは、製品そのものだけでなく、お客様の製造ライン全体、またフロア全体での生産性を向上させるための“トータルソリューション”の提供です。お客様ニーズを捉えた基板生産装置のラインナップや、装置と連動して電子部品を収納・供給する自動倉庫、それらを統合して生産管理を行うシステムなどにより、日進月歩で進化する電子業界のお客様にお応えします。



## Customer Solutions

### 1. 変種変量生産に対応した実装フルラインナップ製品

生産品目や生産量の変化に応じて、別のタイプの装置への入れ替えやマウンタヘッドを交換することなく、最適な実装ラインを構築できるマウンタを中心に、不良基板の流出を防ぐ高速3D検査機など、印刷機・マウンタ・検査機のフルラインナップで、多様な生産変化にスマートに対応します。



### 2. フロア全体の管理・生産性向上をサポート

部品受け入れから、完成品出庫まで、フロア全体の改善や生産性向上のサポートをさせていただくのがJUKIのトータルソリューションです。実装工程後の手作業の自動化、電子部品の自動保管管理製品、生産計画の達成に貢献するシステムソフトなど、進化するソリューションでフロア全体での生産性の向上をサポートします。



電子部品を保管管理する自動倉庫

### 3. 手厚いビフォー・アフターのサービス

定期的なメンテナンス・部品交換といった保守点検に加え、トラブルが発生した場合は365日・24時間以内に対応することを目標に、迅速な復旧作業にあたります。製品購入前にもお客様の生産要求に応じた製造ラインの提案や基板への搭載試験、講習会などを実施し、ビフォー・アフターのサービスで、世界中のお客様に安心をお届けします。



## Products



高速スマートモジュラー  
マウンタ  
RS-1



高速コンパクトモジュラー  
マウンタ  
RX-7R



3D基板外観検査機  
(AOI)  
RV-2-3D



マルチタスク  
プラットフォーム  
JM-100



インテリジェント  
ストレージ管理システム  
ISM3600

## 産業装置事業

# 基板製造工場の設備とシステムとの融合により 工場全体がつながるJUKIのトータルソリューション

## JUKIのSmart Factory提案

### 実装統合システムソフト **JaNets** Juki Advanced Network system

マウンタや自動倉庫、他装置をつなげた実装ラインの生産管理はもとより、お客様の基幹システムとの連携により、フロア全体での生産性の向上を実現します。



### 基板製造工場



前工程



実装工程



後工程

## 基板製造工場

部品  
受入

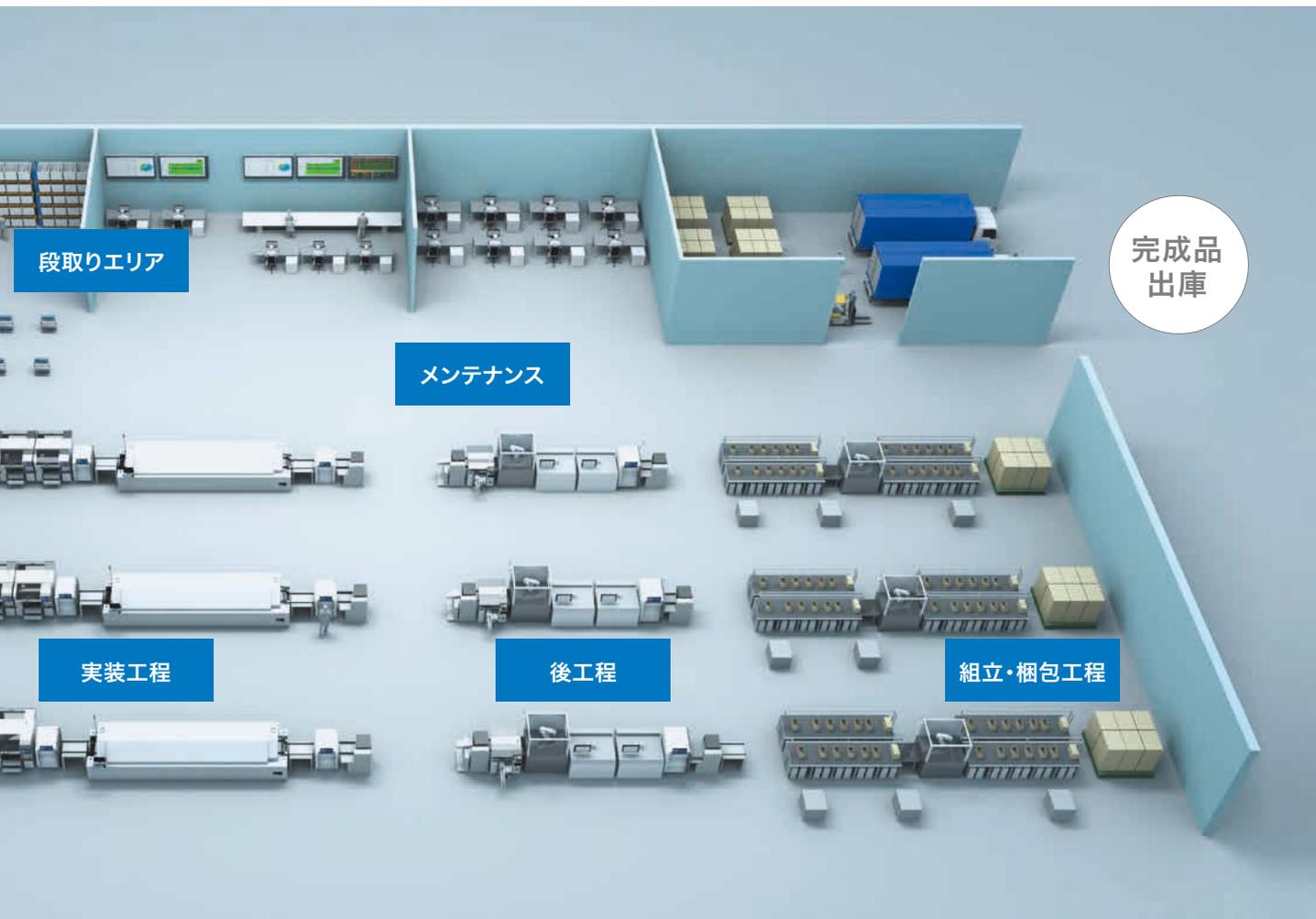
部品倉庫

自動倉庫

### 実装システムソリューション

JUKI独自の機構を搭載した印刷機、検査機、チップマウンタ、汎用マウンタをフルラインナップしています(リフロー除く)。搭載する電子部品の高さに応じてヘッドの部品認識センサーの高さを可変させ、ヘッド交換を不要にしたマウンタなど、幅広いラインナップで、変種変量生産をはじめ、実装ラインの生産性向上に貢献します。





### 後工程自動化システムソリューション

実装ラインでの自動搭載が難しく、後工程にて人の作業で手挿入を行っていた大型電子部品や重量部品、搭載の難易度が高い部品を自動で挿入・搭載する装置です。



### ストレージシステムソリューション(部品供給管理効率化)

実装ラインと連動させ、人手で行われている実装部品の供給管理業務を自動化する仕組みです。部品を自動的に供給・収納する自動倉庫や、自動倉庫から部品を搬送するAGV、リール部品をピッキングする人協働ロボットなどを活用することにより、作業効率、生産性を飛躍的に向上できます。



# GROUP BUSINESS



## 受託開発・製造事業

### 「技能者」+「開発・製造装置」+「開発・生産ノウハウ」+「材料」の4つの総合力で製造業のお客様をサポート

製造会社のものでづくり力を結集させた事業です。主要製品である工業用・家庭用マシン、マウンタの設計・開発から部品製造、製品組み立てを行う中で育まれた開発力や精密加工、プレス・板金加工、鋳鉄鋳物、精密鋳造、金型製造など、幅広く高度なものでづくり力を有しています。JUKIのグループ事業はそれらのものでづくり技術を深化・組み合わせし、お客様が望まれる部品やユニット製品として具現化する事業です。



## スリープバスター ドライバーの安全な走行をサポート



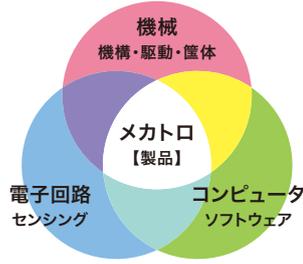
スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。

運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常時とらえ解析。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変(入眠予兆信号等)を画面と音で警告します。さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。

# Customer Solutions

## 1. 機器制御の開発・設計が可能

マウンタの開発・設計で培った技術を基に、機器制御の開発・設計が可能です。機械工学・電子工学・ソフトウェアの分野から多彩な人材が集まり、柔軟な発想力で製品を生み出します。



## 2. JUKIとJUKIグループのものづくり力（開発・製造力）が結集

全拠点がISO9001を取得。50年以上のものづくりの歴史とともに、科学的な分析手法を取り入れ、徹底的な高効率化とムダの排除を実践。付加価値の高い生産、良質なものづくり、高品質な製品をお届けします。



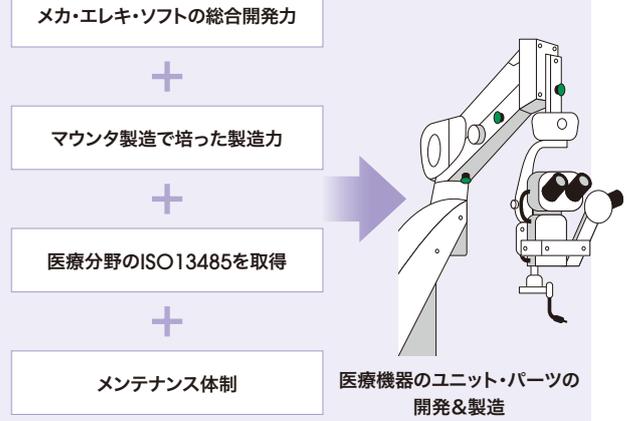
## 3. 「人・設備・方法・材料」をフル活用して、付加価値の高い製品を提供（材料→加工→組付け→完成品）

各種国家資格を取得した技能者がMC・鍛造・研磨・塗装など多種多様な技術を駆使して、お客様のニーズに適したマルチセレクト製造で製品を完成させます。資材調達・製造・組立まで、すべての工程をワンストップで提供します。



## 各拠点の開発・製造技術を融合した受託製品

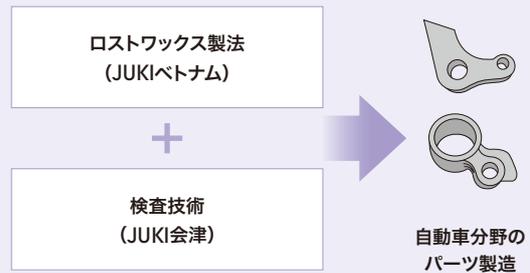
- 永年育んだ開発力～製造力を生かして、製品開発・製造を受託（JUKI産機テクノロジー）



- 2社の技術力を融合してパーツ製造を受託



- 2社の連携でコストパフォーマンスに優れたパーツ製造を受託



JUKIの事業

## データエントリーシステム

### 情報処理に特化したJUKI独自のシステム



データエントリーシステムは、数値や文字などの大量のデータをスピーディに入力できるように工夫された装置です。

生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージエントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。

# CUSTOMER BUSINESS



## 最強のカスタマーサポートとパーツ供給で世界中のお客様に安心をお届け

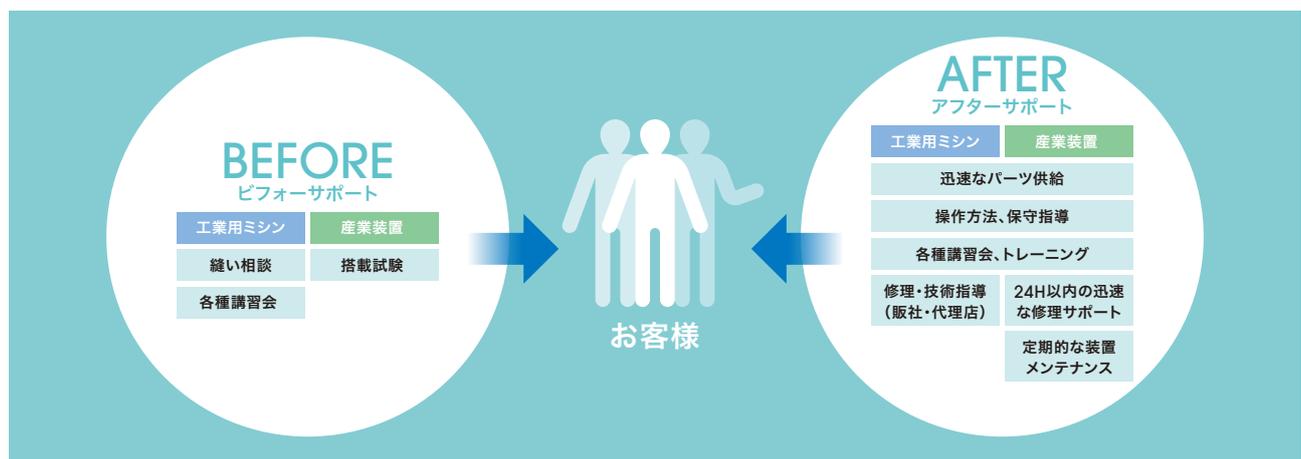
JUKIの主力事業である工業用ミシンと産業装置のお客様のニーズを肌で感じて、製品をご購入いただいたお客様に、より良い環境でご使用いただけるように、消耗品、補用パーツのご提供やアフターサービスを行う事業です。

工業用ミシンにおいては、約10万種類のパーツを在庫し、お客様の需要にタイムリーにお届けする体制を整えています。また、品質向上や生産をストップさせないための予備パーツのご提案などを積極的に行っています。

産業装置においては、交換推奨パーツのご提案やオーバーホールなどのメンテナンスの提案活動を行い、製品を長くご愛用いただくための、未然保守活動を行っています。



工業用ミシンパーツセンター(大田原工場)



# Customer Solutions

## 1. 世界中のお客様にパーツを迅速にお届けする仕組み

工業用マシン、産業装置ともにお客様工場で使われる生産財のため、製品の不稼働時間を極力少なくする必要があります。何らかの原因で機械のトラブルが発生し、その修理のためにパーツ一つが欠けても、工場のラインが止まり、お客様の生産に影響を及ぼしてしまいます。

JUKIでは、長期間ご愛用いただけるように、パーツの在庫体制を整えるとともに、全世界の各販売会社で所有している部品在庫で世界のお客様に迅速にパーツをお届けしています。



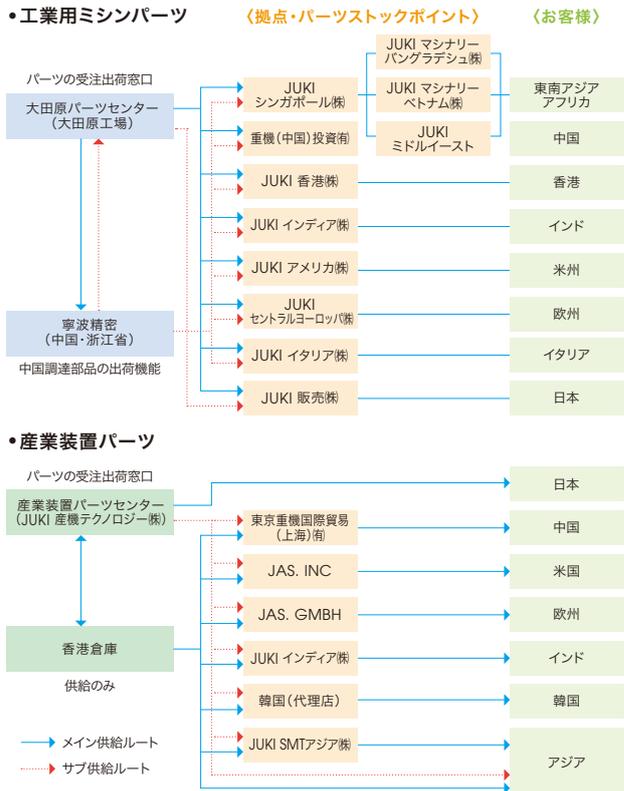
JUKI アメリカ株のパーツ自動倉庫

## 2. 安心・最強のカスタマーサポート

停止したお客様の製造ラインをスピーディに復旧させるために、JUKIでは修理技術者のレベル調査を定期的に行い、全世界に張り巡らせた拠点にスタッフを配置しています。

また、技術面でのサポートに加え、専門知識を生かした各種トレーニングやセミナーを開催し、ソフト面でもお客様をサポートしています。

## パーツ供給の仕組み



JUKIの事業

## 産業装置の未然保守活動

製品を長くご愛用いただくために、年数が経過した製品の状態を把握し、最良の状態に戻すためのメンテナンス活動を実施しています。設備寿命を延長させ、搭載精度の品質を高め安定性を確保することができます。



# TOPICS

## お客様をサポートする技術情報、パーツ情報をWEBで構築

工業用マシン、産業装置の販売代理店における技術担当者やJUKIの製品をお使いいただいている工場の保守担当者に製品のメンテナンス情報などを提供する会員制の「技術サポートWEBサイト」を構築し、タイムリーな情報提供を行っています。また、12,000人を超えるユーザーを持つ、工業用マシンのパーツサイトにおいては、特別会員サイト「Club-J」を開設し、よりきめ細やかなパーツ情報を提供しています。



(左) 技術者向け情報サイト (右) 工業用マシンのパーツサイト



## 「お客様第一主義」を実践する 高度な技術開発力



お客様が求められる生産性向上、省人化、脱技能化、働きやすさ、品質向上、省スペース化などの課題にお応えするため、製品単体の開発のみならず、自動機・自動化システムに取り組んでいるのがJUKIの技術開発です。リーディングカンパニーとして、多くの「世界初」の機構を生み出してきています。

最新の技術の追求と合わせて開発のベースになるのは、製品の使いやすさや、省電力などの環境配慮です。1日中稼動するからこそ、ストレスなく使っていただける製品を作りたい、JUKIのミシンは工場の管理者のみならず、現場の使用者からも圧倒的な支持を得ています。

また、海外のお客様のニーズにスピーディに対応するため、中国、ベトナム、アメリカ、ポーランドにも開発拠点を設置し、ハイレベルな要求にきめ細かく対応しています。

### JUKIの技術開発

JUKIでは、強度や安全性、耐久性などに問題が発生しないように、いろいろな物理現象を仮想的に発生させて評価する実験を繰り返しています。



電子顕微鏡での材料研究



EPMAでの元素分析



ピッカース硬度計での硬さ試験



静電試験器を使ったテスト



加振機を活用しての振動試験



製品梱包落下試験



チップマウンタの耐久試験



工業用ミシン縫いテスト



半無響室での騒音評価

# JUKIのコアテクノロジー

JUKIのコア技術は、品質を安定させる、使いやすさを追求する、作業性を向上させる、消費電力を削減するなど、製品に直結した技術の数々です。多様化・高度化する市場ニーズを的確にとらえ、世界中のお客様のご要望にお応えする魅力あふれる機能を生み出しています。

## 工業用ミシンのコア技術



DDL-9000Cのデジタル制御

**デジタル制御**  
縫い目調整のデジタル化とIoTを活用したデータ転送



AMSの画像処理技術

**画像処理技術**  
プログラムデータとのずれ量を画像処理にて補正し縫製する技術



LK-1903BBの残短機構

**鳥の巣防止・残短技術**  
糸の“鳥の巣”状態を防止し、縫い終わりの糸を短く切断する技術

### その他のコア技術

ほつれ防止技術	縫い終わりのほつれを阻止するため糸結びを作る
アクティブテンション	安定した「縫い」を実現するため糸の張力を動的に制御
送りの上下駆動	上下駆動のデジタル送り機構により送り歯高さが容易に調整可能
ドライ技術	縫製物の油染み防止・環境負荷のために、潤滑油を最大限微量化
省エネルギー技術	各種モーターをコントロール・最適化し消費電力を制御
パーフェクトステッチ	全方向パーフェクトステッチ化するため上下糸を制御

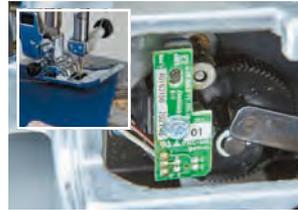
## 家庭用ミシンのコア技術

**フロートモード**  
押え上げ状態を認識する独自技術



HZL-EX7の押え高さのコントロール

**ピボット機能**  
ミシン作動・停止時に合わせた、独自の技術



HZL-EX7の針上下のコントロール

### その他のコア技術

ボックス送り	「四角」を描く送り軌跡で、送り力強化
完全自動糸掛け (イージースレッダー)	風力で素早くルーバーの穴まで通す技術
自動押え上げ	ミシン作動・停止時に自動モーター制御にて押えが上がる技術
スライド針板	針板の針穴を直線専用に限る技術

## 産業装置のコア技術

**匠ヘッド**  
搭載部品に応じて、認識高さを可変



RS-1の高さが可変するヘッド

**検査機の3D画像認識**  
DLP方式投影装置で鮮明に撮像



RV-2-3Dの投影装置

### その他のコア技術

プラネットヘッド	搭載部品に応じて、認識高さを可変
画像認識技術	専用カメラと多様な照明方式で、安定した部品認識を実現
レーザー認識技術	部品に光を当てた角度で、位置と角度を認識
部品ベリフィケーション (CVS)	電気特性を判定する技術で、誤搭載を防止

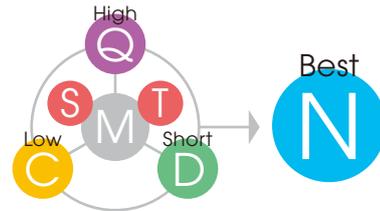
JUKIの価値創造



## 「100%良品生産」を堅守する made by JUKI のものづくり



「JUKI品質」を堅守し、ものづくりの更なる進化に取り組んでいるのがJUKIの製造工場です。そのベースになっているのが、〈Q〉品質、〈C〉コスト、〈D〉納期、〈S〉安全、〈T〉人材育成、〈N〉新製品の「生産の六要素」です。六要素を基に、人〈M〉を中心に管理のサイクルを回し、継続した改善活動でレベルアップを図っています。



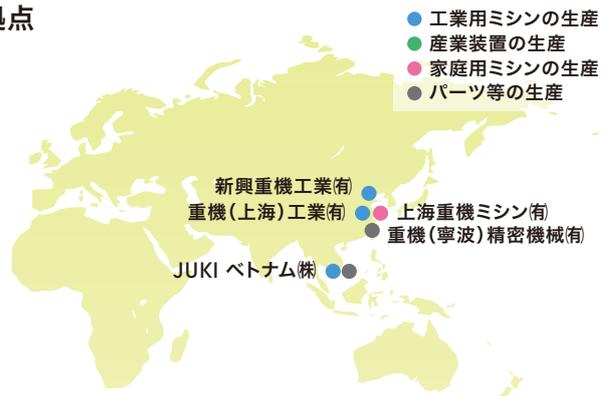
工業用ミシンの生産は、「お客様に近いところで造る」を基本に、日本・中国・ベトナムの合わせて5工場で製造しています。マザー工場である「大田原工場」で生み出された製造方法や製造工法、ノウハウなどが、グループ工場で共有化され、“made by JUKI”の製品を生み出しています。

産業装置の生産は、JUKI産機テクノロジー(株)が担っています。フレキシブルな工法開発と改良に取り組みながら、確固たる品質の製品を世界に送り出しています。

### 国内生産拠点



### 海外生産拠点



## JUKIの生産力

### デジタル生産

大田原工場(工業用ミシンの生産)とJUKI産機テクノロジー(産業装置の生産)では、組み付けの手順がセルごとにタブレット画面で指示されるデジタル生産を導入。短期間での作業習熟や誤組み付け防止とライン編成ロスの削減を可能にし、安定した生産体制を確立しています。



### 技能士育成と品質教育

ものづくりの原点は「人」づくりです。技能資格取得の推進や品質管理教育、社内検定などを駆使して、品質・コスト・納期の維持・向上に継続して取り組んでいます。また、海外工場の将来を担う人材への教育を定期的を実施。マネジメント教育を学んだ人材がJUKI品質を根底から支えています。



### 魅せる工場への取り組み

「5S+安全+QCD」をベースに、ロボット化・デジタル化を通じて、スマート工場への取り組みを進めています。デジタル生産に加えて、フレーム加工、切粉のブロー除去、塗装のそれぞれの工程でのロボット化に加え、工程間の自動搬送システムなど、ITを活用した生産性の高い工場へと変革を進めています。



## TOPICS

### AGVを活用したタクト生産(大田原工場)

組立作業効率のバラツキを平準化し、生産性向上に結びつけるために、AGV(無人搬送装置)を活用したタクト生産を開始しました。組立工程のライン生産において、AGVが一定のタクトタイムで次工程の担当者に運び、その時間に合わせて所定の組み付けを完了させる仕組みです。完了できなかった場合は、ラインチームで補いますが、根本原因はビデオ解析し、改善につなげます。



2017年12月より開始したLK機種種のタクト生産ライン

### 見せる実装ライン(JUKI産機テクノロジー)

「基板生産」ラインにおいて、JUKIが提案するスマートファクトリーのモデルラインを構築しました。モデルラインは、フルラインナップのJUKI実装ライン装置に、後工程での手作業搭載を自動化した装置やロボット、部品を自動的に供給・収納する自動倉庫などを活用した効率的で生産性の高いラインです。また、実装統合システムソフトJaNetsを活用し、生産管理の見える化もできます。



後工程の手作業搭載を自動化したライン

# ステークホルダーとともに お客様とともに

JUKIは、お客様の声を直接聞くことができるよう、サポート体制の充実に取り組んでいます。お客様との接点を増やすことで、お客様に満足いただける製品・サービスを提供し続けます。

## 工業用ミシン



### TMI(VIETNAM)CO.,LTD.

Vice General Manager of  
TMI(All factory)  
Vu Thi Hoang Yen さん

Production Manager of  
ELITE LONG THANH  
Luu Van Trong さん

世界の名だたるスポーツウェアを生産している私たちは、ほとんどの工場で長年JUKI製のミシンを使用してきました。それは、ミシンそのものの品質はもちろんのこと、さまざまな要望に応じてくれる対応力と姿勢を信頼しているからです。

お客様からの要望は、品質、コスト、納期の3点をはじめとしていずれも厳しく、日々変化していきます。

JUKIは、私たちがミシンに求めるこうした要望のそれぞれにしっかりと対応してくれます。

特に、近年課題となっている生産性の向上では、新たな技術の導入や生産ラインの自動化といった生産技術の分野に至る提案まで受けられることが、他社にないメリットと感じています。

しかも、JUKIのスタッフの方から積極的により良い手法を考え、努力してくれるのですから、心強いことは言うまでもありません。

志を共にし、共に成長することができる。そんなパートナーが、JUKIだと思っています。

“同じ目標に向かって歩んでくれる  
そんな信頼できるパートナーがJUKIです”



“決められた時間に決められた数量を良い品質で”、全社員の合言葉です。生地送り安定化のための補助テーブルの設置やエアコンの送風を避け、糸の繰り出しを安定させるために糸ボックスを全てのミシンに取り付けるなど、TMI社の現場には、さまざまな独自の工夫がされています。

## 家庭用ミシン



キルト作家・講師

### 中沢フェリーサ さん

キルトを始めたきっかけは、アンティークの藍染め生地との出会いです。生まれ育った場所で子供の頃見た、抜けるような青空と重なるものがあり、心を奪われました。

キルトは長い歴史があり、その中でたくさんの作品が生み出されていますが、私がこだわり続けてきたことは、オリジナリティです。作り続ける中で湧きでてくるデザインや色合いなどのイメージを大切に、それを膨らませながら制作しています。

JUKIのミシンは、家庭用・職業用・ロック・ロングアームキルティング専用ミシン、最近では工業用ミシンDDL-9000Cまでフルラインナップで愛用しています。縫いの安定性と細部に亘る親切設計が気に入っています。毎日使う私のパートナーですので、週に一度は掃除し、オイルを差すなどのメンテナンスも丁寧に行っています。

キルトジャパン、Quilt Maniaやmagic Patchなどの雑誌に作品を発表したり、「キルト日本展」「キルト大賞」「AQS」などに出品し、たくさんの賞もいただけてきましたが、もっともっと納得のできる作品を追い求めて、毎日制作に励んでいます。

JUKIさんにはさらに技術に磨きをかけていただき、これまでにない画期的なキルトミシンを作ってほしいです。

“JUKIのミシンで  
制作の幅が広がりました”



中沢フェリーサさん自宅のアトリエとキルト作品

## 産業装置



### シンセン双翼科技有限会社

董事  
頼偉強 さん

TWOWINGは従業員約3,000人の2006年に設立した会社です。PON「Passive Optical Network」セットボックスなど、通信用の製品を開発、製造、販売しています。中国国内の他、ヨーロッパ・東南アジアへも輸出を行っています。

お客様ニーズの多様化により、多品種少量生産が多く、生産準備時間(段取り時間)の効率化に日々努力しています。また、生産性を向上させるために社員教育にも力を入れています。教育カリキュラムに沿った指導や職場でのOJT教育などを通じ、業務知識やレベルの向上、チームワークの醸成に取り組んでいます。

JUKIさんのサービスエンジニアはとても勤勉です。基板製造ラインのマシンに回路故障が発生した際は、問題を分析し解決するまで、サービスチームの皆さんは非常に粘り強く対応してくれました。これほどまでの顧客サービスは目を見張るものがあり、JUKIさんへの信頼がさらに増しました。

今後さらなる技術力の向上と手厚いサポートで、私たちの会社が成長するために力を貸していただきたいと思います。

“不測の事態にも粘り強く  
対応していただける  
手厚いサポートが魅力です”



## グループ事業



### 工機ホールディングス株式会社

調達本部 調達部長  
森田 清 さん

私たちの会社は、約1,500種類の製品を品揃えしている電動工具の総合メーカーです。国内外に9工場あり、世界のお客様に製品をお届けしています。

私たち調達部門の役割は「利益への貢献」と「持続的な安定調達の実現」です。日々、「品質(Q)・コスト(C)・納期(D)」のバランスを意識しながら調達活動を行っています。会社の行動指針の一つに「ABC作戦」というものがあります。ABCの意味は「A 諦めず、B ぶれず、C ちゃんとやる」です。JUKIさんは私たちのその指針に共感いただき、タイムリーな新製品開発のために一緒に汗をかき、努力していただいています。

JUKI会津さんとは約30年前から、JUKIベトナムさんとは約15年前から取引があり、私たちのものづくりに欠かせないパートナーとなっています。最近では、JUKI金属さんで造った鋳物をJUKI大田原工場さんで加工していただくことを計画中で、さらにJUKIのグループ事業との取引の拡大を推進しています。同じものづくり企業として、切磋琢磨しながら、私たちが世界のメジャープレーヤーになるためにこれからも力を貸していただきたいと思います。

“JUKIは一緒にものづくりに  
取り組んでくれる  
信頼できるパートナー”



工機ホールディングスの商品を展示  
JUKI会津株が受託製造しているパーツ  
しているショールーム(茨城県勝田工場内)

JUKIの価値創造

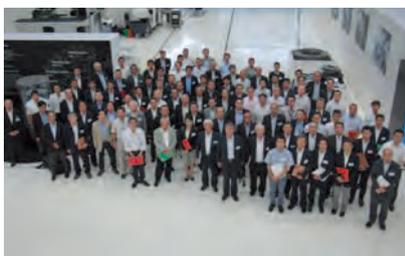
# ステークホルダーとともに お取引先とともに

お取引先とともに技術力の向上に努め、共存共栄を目指しています。また、説明会や研修会を通して、お取引先とのコミュニケーションを強化しています。

## JUKI協力会研修会〈1〉

2017年7月に70社74名の多くの会員様にご参加いただきJUKI協力会研修会を開催しました。工作機械メーカーDMG森精機(株)の伊賀事業所を訪問し、スマートファクトリー(IoT&インダストリー4.0対応)の取り組みについてご講演をいただき、工場見学では具体的に部品出庫の自動指示化、組立リードタイム削減のモジュール化やチームライン生産方式化、全世界工場の稼働状況のリアルタイム表示化等、IoTを駆使した

管理レベルの高さに一同、感銘を受けました。今後、更なる改善、改革に生かしていきたいと思えます。



DMG森精機(株)伊賀事業所にて記念撮影

## JUKI協力会研修会〈2〉

2017年11月に88社、94名の会員様にご参加いただき多摩本社で協力会研修会を開催しました。ショールーム見学で工業用デジタルマシンや産業装置のISMなどを絡めたラインソリューションについてご説明し、研修会では「スマートファクトリー化への取り組み」と題し、AGV(無人搬送車)、ロボット、システム化の取り組みについて講演を行いました。参加された方々からは、お客様の省力化・省人化ニーズに沿った製品提案や工場のスマートファクトリー化についてよく理解でき、充実した内容だったと好評をいただきました。

研修会終了後には、清原社長より特にQCDに貢献いただいた7社に表彰盾を、内梨常務(現専務)より品質審査基準を満たす53社に品質保証納入認定書をお渡ししました。



優秀お取引先の(株)佐文工業所社長 佐藤様(右)を表彰される清原社長(左)

JUKIショールーム見学

# 株主・投資家とともに

株主や投資家に向けたタイムリーな情報公開を通じ、経営の透明性を高めていきます。皆様からいただくご意見を参考に、ご期待に応えられるよう努めています。

## 株主総会

毎年3月に定時株主総会を開催し、より多くの株主の皆様にご参加いただけるよう、集中日を避けるなどの工夫をしています。「第103回定時株主総会」を2018年3月26日にJUKI本社において開催し、多くの株主の皆様にご来場いただきました。

株主総会終了後には、恒例の主力製品見学会を実施し、出席された株主の皆様とコミュニケーションを深めました。

また、創業80周年記念配当10円を含む1株35円の配当をしました。今後も株主のご期待にお応えできるよう引き続き努力します。



## IR決算説明会

JUKIは、株主・投資家とのコミュニケーションを強化するために、適切な情報開示と理解促進に積極的に取り組んでいます。この一環として機関投資家を対象とした決算説明会を年2回開催しています。

2018年2月、(株)日本投資環境研究所(中央区日本橋)で、2017年12月期の決算説明会を行い、「2017年12月期業績の概要と2018年度業績予想」および「中期経営計画-Value up 2022-(2018-2020年度)の取り組みや重点施策」について、説明を行いました。

また、個人株主様からのお問い合わせへの対応や証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの個別取材に対応するなど、積極的な対話に努めています。



# 社会とともに

グローバルに展開する企業として、各国の地域および社会と良好な関係を築き、  
良き企業市民として、社会の要請や期待に応えられるように取り組んでいます。

## まち美化貢献で表彰

2018年1月、パルテノン多摩市民ギャラリーで、多摩エコ・フェスタ2018が開催され、まち美化貢献団体としてJUKIが表彰されました。5月30日(ごみゼロの日)に、周辺企業と共に、ゴミ拾いを就業時間前に行うなど、長年、公共の場を快適な状態に維持し、環境美化に貢献したことが評価されました。



中央が多摩市・阿部市長

## 本社食堂が「平成29年度東京都特定給食施設等 栄養改善知事賞」を受賞

本社食堂が「平成29年度東京都特定給食施設等栄養改善知事賞」を受賞しました。東京都は毎年、栄養改善に貢献した優良な特定給食施設に対し、表彰を行なっています。栄養指導や管理栄養士さん考案のメニュー展開、健康診断に伴う食堂イベントの実施など、利用者の健康を考慮した運営が評価されました。



## 「栃木県地方産業安全衛生大会」にて、功労賞を受賞

2017年10月、栃木地方産業安全衛生大会が宇都宮文化会館で行なわれ、大田原工場 健康相談室の室井美枝子さんが「全国THP推進協議会功労賞」を受賞されました。長年にわたり、厚生労働大臣の指針に沿って働く人の「心とからだの健康づくり運動」の推進に尽力された功績が認められました。



## 近隣小学生が「社会科見学」に来社

多摩本社、大田原工場、JUKI産機テクノロジー(株)は近隣の小学生が会社を訪問する「社会科見学」に協力しました。

小学3-6年生の計260名が普段は学校で学べない会社見学を通して、ものづくりや会社施設内の工夫や努力などについて学習し、後日、JUKI新聞やものづくりについての発表、お礼状などで感想を報告いただきました。これからも地域の子どもたちの育成に協力していきたいと思ひます。



多摩本社で手作りした巾着袋



大田原工場に届いたお礼のポスター

JUKI産機テクノロジーの見学

## 夏休み親子ソーイング教室を開催

2017年7月の2日間、本社にて「夏休み親子ソーイング教室」を開催し、32組67名の親子に参加していただきました。この講習会は毎年夏休みに開催し、今回で11回目となりました。子供たちには実用的な手提げバッグを、保護者の方はタック入り肩掛けバッグを製作していただきました。ミシンの楽しさ、ものづくりの楽しさを感じていただくこの活動を今後も推進していきたいと思ひます。



# ステークホルダーとともに 社員とともに

JUKIグループが目指すのは、国籍・人種・性別・年齢を超えて「雇用と成長」の機会を提供するグローバル企業です。国内外を問わず多様な人材の活躍を可能とする教育制度や、働きやすい環境作りを通じて、事業発展と社員満足度の向上に努めています。

## 本社7階オフィスのフリーアドレス化

経営企画・人事・総務・財務経理・監査に従事する職場が入る本社7階オフィスを、固定席制から、個人の袖机を一切排除したグループアドレス制に2018年4月から変更しました。加えて、オープンミーティングエリアを拡張し、業務に集中できるブースも設けました。これは働き方改革の一環として、モデルオフィスを作るための施策で、ペーパーレス化や部署間の壁の撤廃、コミュニケーションの深化を目的にしています。



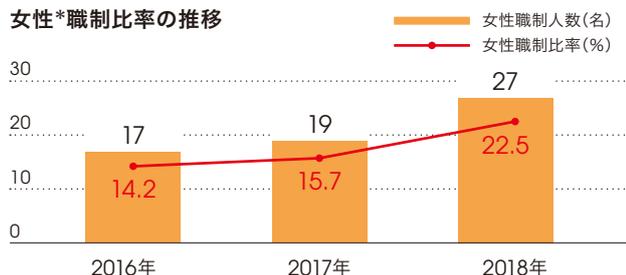
(左)変更前の固定席職場、(右)変更後のグループアドレスの職場

## ダイバーシティへの取り組み

性別・年齢・国籍等にかかわらず、多様な人材、多様な働き方を受け入れ、一人ひとりの多様性を活かすダイバーシティマネジメントを推進しています。推進の取り組みの柱は「女性活躍推進」「グローバル人材配置」「専門社員の活躍推進」で、これらを推進することにより、イノベティブ(革新的)で、活気のある社員と組織風土を生み出し、組織パフォーマンスを最大化することを目指しています。

女性管理職比率 2016年 4.3% → 2020年(目標) 10%

### 女性\*職制比率の推移



\*職制: 補佐職・チーフ(係長)、サブチーフ、主任

## JGQMF

品質経営&働き方改革について研鑽することを目的とした「JGQMF2017」を2017年11月に開催しました。第一部は社内講師による講義にて、方針・目標管理の考え方、スマートプロセスについて学びました。第二部は優れた活動を全社へ水平展開するための発表会として、全グループ会社から選ばれたトップダウン5テーマ、QCサークル3テーマの発表を行い、約500名が聴講しました。

※ JGQMF・・・JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUMの略



第一部の「方針・目標管理の考え方」の講義

## 技術系「年間特別表彰発表会」

開発・技術者を対象にした「年間特別表彰発表会」を2018年2月に開催し、前年度(2017年度)に、特別表彰を受けた優秀開発案件12テーマを受賞者が発表しました。発表内容には、プロセスの説明や、失敗・苦労を教訓に成功に結びつけた内容を盛り込み、参加した多くの技術系社員の共通課題として、具体的なヒントに結びつけられるようにしました。こうした発表会を通じて、スマート化提案の開発に生かしていきます。

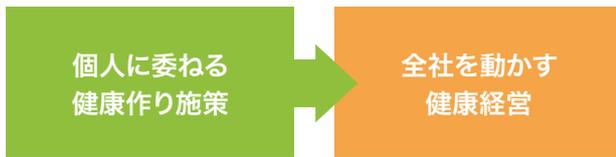


多くの技術者が聴講

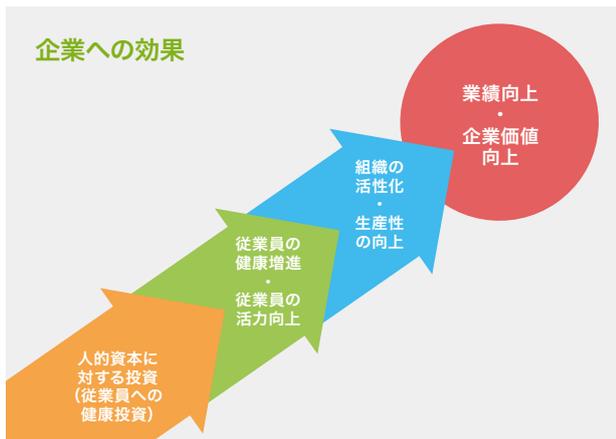
# 健康経営宣言と取り組み

従業員の健康や活力が、生産性を向上し企業業績や企業価値を高める貴重な経営資産であるという考えに基づき、更なる推進を図るため、健康経営宣言を制定しました。

「健康経営」の考え方を軸に、健康や活力の維持増進に取り組み、持続的成長を目指します。



	健康作り（今まで）	健康経営（これから）
目的	なるべく健康な人生(福利厚生)	生産性向上（戦略投資）
意思決定	個人の自主性（個人依存）	企業理念（トップダウン）
機会提供	各種健康イベントや保健事業 (例: 禁煙マラソン、歯磨き月間)	理念徹底、枠組み提供
対象	希望者のみ利用	全社員を巻き込む



## JUKIグループ健康経営宣言

JUKIグループは「イノベティブで活気ある人と組織をつくること」を経営基本方針の1つに掲げております。これを実現するためには、従業員一人ひとりが心身ともに健康で、活力に満ち溢れ、持てる能力を最大限に発揮することが重要であり、そのことが企業の生産性や創造性の向上とお客様へのより良いサービスの提供につながると考えております。

当社はこの考えのもと、従業員の健康や活力の維持向上を追求する経営を力強く推進していくことを、ここに宣言いたします。

本健康経営宣言に基づき、健康と活力の維持増進に関する推進体制を強化し、主体性を持って自発的に健康維持増進活動に取り組み従業員へ積極的な支援を行い、従業員の健康意識を高めてまいります。また、互いに支え合い面倒見あふれる、健康で活気ある組織作りを推進し、働き方改革の取り組みと併せて、健康経営を総合的に推進してまいります。

2017年9月15日

JUKI株式会社  
代表取締役社長 清原 晃

JUKIの価値創造

## TOPICS

### 「健康優良職場・社員の表彰」 （「健康ポイント制」トライアル実施）

健康経営理念の周知や健康への意識改革を進めるために、健康状態が模範的な職場や社員を表彰する「健康ポイント制」をトライアル実施しました。職場単位の審査は単に健康診断の検査値の結果だけでなく、喫煙などの生活リズムや、残業時間や会社が推奨する働き方などの遵守率を加味し、上位5位までを2017年12月に表彰しました。また、意識改革のために全職場の順位も公表しました。今回はトライアル実施でしたが、今回の実施を考察し、次回以降に反映させます。

#### 【啓蒙活動】

- ・「健康と経営の関連」など、6種類のポスターを掲示
- ・PR動画の放映(食堂にて1週間)
- ・脂質改善メニューの提供
- ・スマホの万歩計と連動した自販機の導入

#### 「健康ポイント制」の評価項目

① 平均値	② 付加点
<b>健康状態が模範的(結果への付与)</b> ・生活習慣にかかわる全結果 (肥満度、腹囲、血圧、血液検査)	<b>勤務状態が模範的(結果への付与)</b> ・残業80時間を超えない ・深夜勤務を行っていない ・水曜日時退社の遵守率 ・夏季指定有給の取得遵守率 ・休日出勤を行っていない
<b>健康努力(経過への付与)</b> ・喫煙習慣の改善など	

#### 表彰職場

1位	家庭用マシンCマーケティング部
2位	JUKI健康保険組合
3位	JAS開発C開発部第二設計G
4位	秘書室
5位	総務部庶務サービスG

# 環境に対する取り組み

## 環境ビジョン

JUKIは環境経営を宣言し、社会的要請に応えるため、環境への配慮、温室効果ガス排出削減や地球温暖化防止等の環境規制を順守し、その責任を果たしています。さらに安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

環境に配慮した  
ものづくりを通じて、  
お客様、地球環境に  
貢献していきます

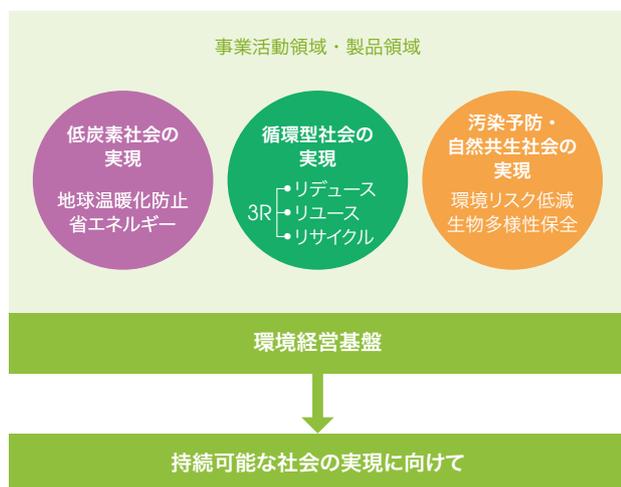
### JUKIグループ環境保全活動の考え方

JUKIグループは、持続可能な社会の実現に貢献するために、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「汚染予防・自然共生社会の実現」という3つの領域で環境経営を実践しています。これらを全てのステークホルダーに、より具体的に示すため、「環境理念」と「環境行動指針」からなる「ECO MIND宣言」を行っています。

「ECO MIND宣言」とは、JUKIのコーポレートスローガン「Mind & Technology」を構成するMindの「品質」、「顧客満足」、「人間性尊重」に、「環境」を加えることです。

これに基づいて、JUKIグループが具体的に環境への取り組みを進めるための指針「環境保全ガイドライン」を策定し、JUKIグループとしての環境保全活動を実践しています。

また、情報交換や水平展開を行い、グループ全体のレベルアップを図っています。



## ECO MIND

未来へひきつぐ、地球のいのち



### ECO MIND宣言

#### 環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

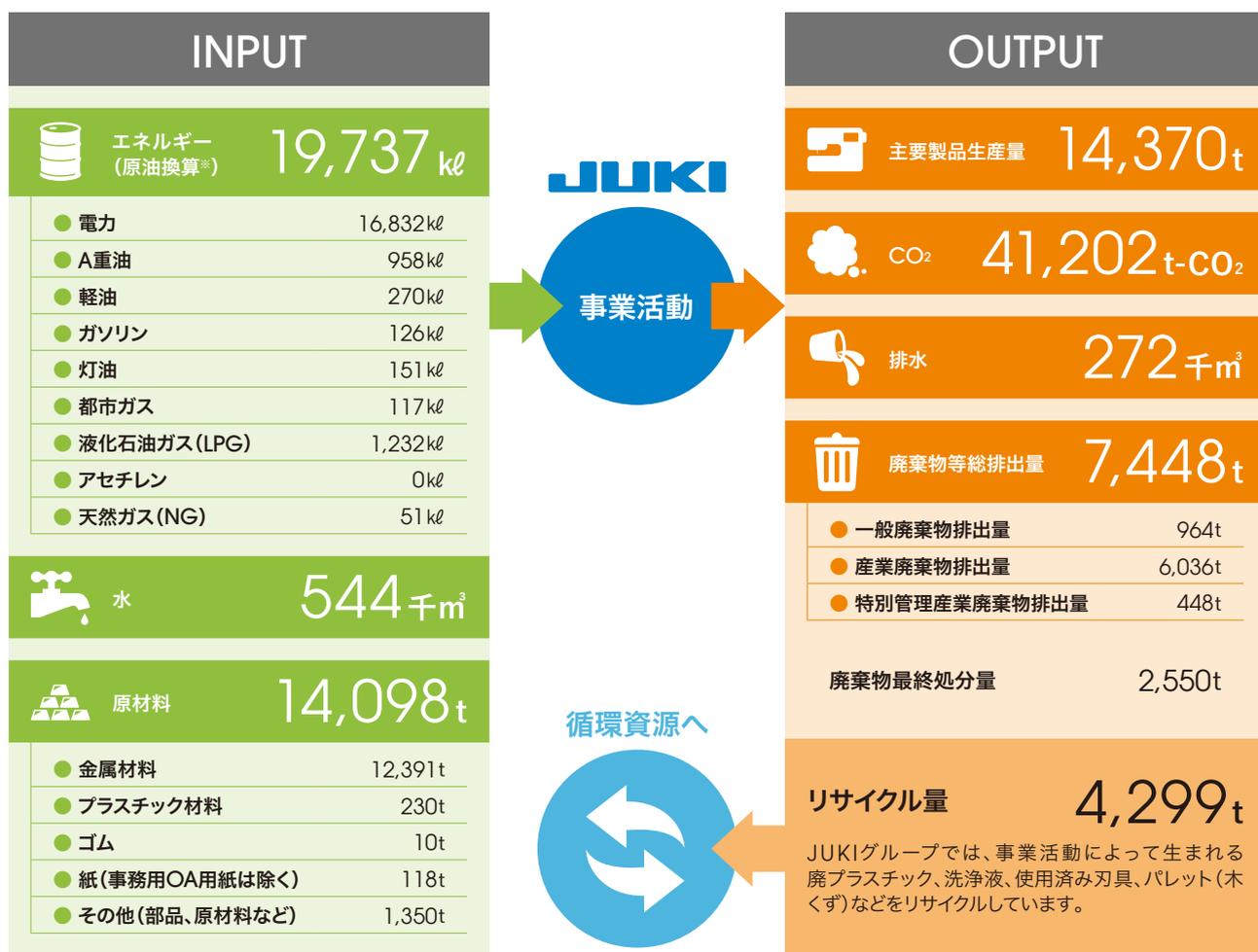
1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。

#### 環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。また3R(リデュース・リユース・リサイクル)の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりは「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。

# 事業活動における環境への影響

JUKI製品は、部品や材料に貴重な資源を使用し、多くのエネルギー・資源を使って製造されています。  
このためJUKIグループでは、事業に関連する環境負荷を明らかにして、環境パフォーマンスの改善を進めています。



JUKIの価値創造

- 電力:工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
- A重油:塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
- 軽油:トラックの燃料
- ガソリン:社用車の燃料
- 灯油:暖房用(温風機)の燃料
- 液化石油ガス:常用発電機の燃料
- アセチレン:設備修理時、鉄板切断や溶接時に、ガス溶接の燃料
- 天然ガス:食堂での調理や浴室給湯などの燃料
- 金属材料、プラスチック材料、ゴム:部品の材料
- 紙:輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用および製造工程での製品の打コン防止用

- CO<sub>2</sub>:電気や燃料の使用に伴い発生
- 一般廃棄物:家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- 産業廃棄物:工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた20種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット(木くず)、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- 特別管理産業廃棄物:産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあるもので、特に厳重な管理が必要。古いコンデンサなどに含まれるPCBなど
- 最終処分:廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- リサイクル:資源として再生して有効利用すること

このデータは、JUKIと国内・海外製造グループ会社の2017年度データについてまとめたものです。一部含まれていないグループ会社もあります。

※ 原油換算:異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したものです。

# 環境に対する取り組み

## 海外

### 上海重機ミシン(有)でのスマート化への取り組み

上海重機ミシン(有)では、「経営の5S」に基づき、効率的に働きやすく、スマートな工場を目指し改革を進めています。スマート化することによりエネルギーの削減にもつながります。自主性、責任、アイデアの具現化等により、社員の改革に参画する意識・積極性が向上しました。例えば、検査システム改善では、図のように測定後、数値を読み取りPCへ手入力していたものを、測定器へシステムを繋ぐことで、データがPCへ送信できるようになり、工数を大幅に削減、正確さも向上しました。

Before



After



### 新興重機工業(有)での法規制対応

新興重機工業(有)では、中国環境規制の順法に取り組んでいます。

工場内で下塗り塗料溶剤の使用を廃止することで、粉体塗装のみでの塗装生産工程の構築を推進しています。下塗り塗料廃止により、大気汚染問題の一つであるVOCsの排出をゼロにすることができ、環境リスク回避が可能となっています。これからも環境に優しいグリーン工場の運営に貢献して行きます。

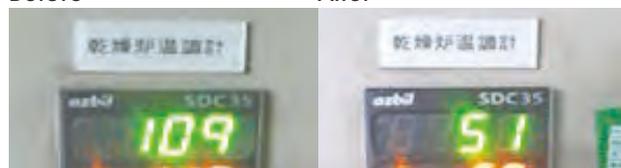


### 重機(上海)工業(有)でのLPG使用量削減の取り組み

重機(上海)工業(有)では、下塗り塗料を同等品質の塗料に変更し、乾燥炉設定温度を約60℃下げることができ、LPG使用量を削減することができました。

新塗料は2017年8月から使用開始し、LPGの台当り使用量を0.06kg/台、CO<sub>2</sub>排出量を4,238 kg-CO<sub>2</sub>削減できました。2018年はLPG使用量を0.12kg/台、CO<sub>2</sub>排出量を27,042kg-CO<sub>2</sub>削減の見込みです。

Before



After



### 重機(寧波)精密機械(有)での生産段階でのCO<sub>2</sub>削減の取り組み

重機(寧波)精密機械(有)では、2017年度の年間エネルギー使用量を削減し、CO<sub>2</sub>排出量を前年度比13.0%削減できました。

寧波精密のエネルギー使用量の大半を占める電力量の削減が、CO<sub>2</sub>削減の大きな対策となります。よって2017年は居室、応接室、廊下等の事務部門をLED化し、全社672灯の内200灯を交換致しました。これによる年間電力削減は4,992kWh、CO<sub>2</sub>排出削減量は、2,771kg-CO<sub>2</sub>となりました。引き続きLED化を進め、2018年は全灯LED化を計画しています。

年度	部門	交換数(灯)	年間電力削減(kWh)	温室効果ガス排出量削減(kg-CO <sub>2</sub> )
2017年	事務所	200	4,992	2,771
2018年計画	工場・倉庫他	672	39,946	22,171

Before



After



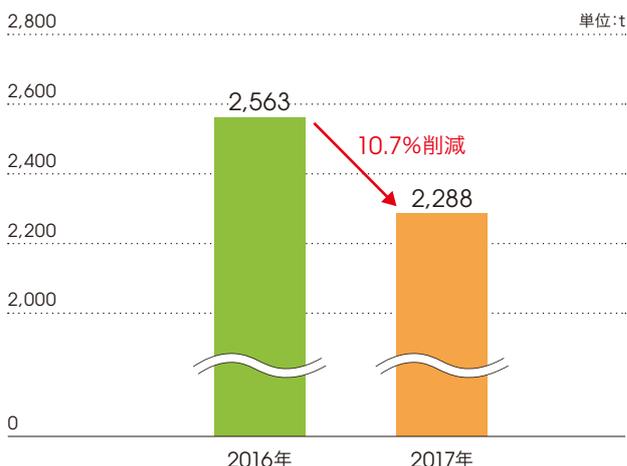
従来のオフィス

照明をLED化

### JUKIベトナム(株)での廃棄物削減の取り組み

JUKIベトナム(株)では、ロストワックス製法から発生する廃棄物が多く、これを削減するため、不良率改善に取り組んでいます。有害廃棄物は機械掃除にて発生するものも多くあります。これらの削減のため、各職場にて廃棄物量を管理しています。また、再生利用量(リサイクル)を上げるため、廃棄物の分類を指導するなどして廃棄物削減の工夫を実施し、2017年度は最終処分廃棄物を前年より10.7%削減しました。

### 最終処分廃棄物



# 国内

## ㈱鈴民精密工業所でのLED化推進

㈱鈴民精密工業所の現場では、細かな部品加工や測定器を扱うため「目」を酷使する業務が多くあります。そこで「65歳超雇用推進助成金」制度を活用し、工場の蛍光灯944本をLED照明に変更しました。これにより20%~60%明るくなり、特に再雇用者に好評です。使用電力量は従来の蛍光灯と比較して年間108,996kWh、60.5 t-CO<sub>2</sub>の削減ができ、働きやすい環境づくりにも効果がありました。

Before

After



## JUKI産機テクノロジー(株)での環境法規制対応

JUKI産機テクノロジー(株)本社工場検査課では、工場内で製品組み立てに使用する部品を図面通りのスペックで納品されているかを現物チェックしています。その中の一つに蛍光X線分析装置があります。この装置はRoHS指令の環境汚染物質である6物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、ポリ臭化ビフェニル、ポリ臭化ジフェニルエーテル)を検出し、有害な物質が部品に含まれていないかを検査できます。



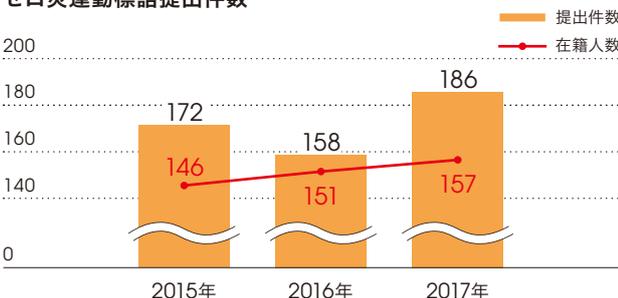
## JUKI松江(株)での労働安全衛生

JUKI松江(株)では、7月の安全週間に先駆け、5月下旬の「全員参加でゼロ災運動」標語の募集をはじめとして、10月の労働衛生週間、12月の年末年始無災害運動と、様々な機会を通じて安全意識の活性化を促すイベントを定期的を実施し、安全意識の高揚を図りながら、リスクアセスメント活動を推進しています。

### 各年度のゼロ災運動標語最優秀賞

2017年	見て見ぬ振りはもう卒業。感じた危険はすぐ潰せ!
2016年	見えても意識しないと見えぬ危険。危険を予知してゼロ災職場
2015年	手をかけ、声掛け、心掛け。皆で築こうゼロ災職場

### ゼロ災運動標語提出件数

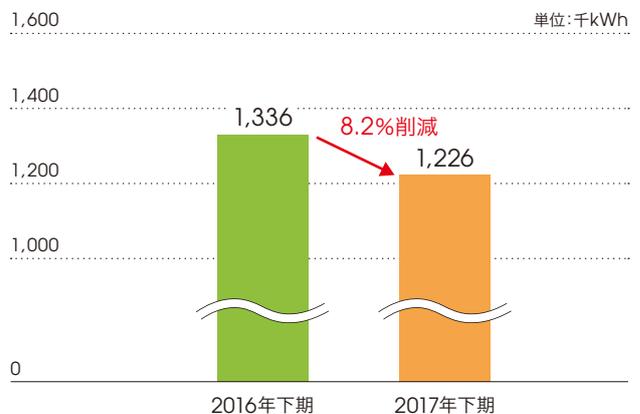


## 大田原工場 頭部加工課でのCO<sub>2</sub>削減の取り組み

大田原工場では、2017年下期から頭部加工課、設備保全課が互いに協力し、「ローラーコンベア」、「M/Cチップコンベア」を、「常時運転」から必要な時間だけ動かす「間欠運転」への変更に取り組みました。結果、2017年下期電力使用量は、前年同期比で8.2%削減できました。また、この取り組みを通じ課員全員の不要な電気を消す意識が一段と高まりました。

※電力削減は、上記改善以外に他の活動も含まれています。

### 電力量削減



## 「環境標語」を社内公募

環境月間である6月に「環境標語」を社内公募しました。業務の効率化、働き方改革の要素を盛り込んだ標語を募集し、本社・大田原工場・国内グループ会社より全1,215通もの応募がありました。この中から優秀な作品について表彰を行い、ポスターにして本社及び国内のグループ会社に掲示しました。



### 最優秀賞

資源は有限 技術は無限 未来に残すイノベーション

### 優秀賞

仕事もECOも気づきからはじめる効率化 目指そう業務のスマート化

ニーズに合った物づくり 地球のニーズも考えて 未来のための業務改革

省エネ極めて 経営向上 あなたも私も 環境大臣

転記作業 無くて資源の無駄防止

【J】自分から 【U】動いて 【K】環境 【I】いい未来

# コーポレート・ガバナンス

## 役員紹介

(2018年3月26日現在)

### 取締役



#### 清原 晃

代表取締役社長  
兼 JUKIオートメーションシステムズ㈱  
代表取締役社長



#### 内梨 晋介

取締役専務執行役員  
「グローバル コ・オペレートセンター  
(経営企画部、財務経理部)担当」  
兼「事業センター(グループ事業カンパニー)担当」  
兼「生産センター担当」



#### 和田 稔

取締役常務執行役員  
「開発センター担当」  
兼「品質保証部担当」



#### 見浦 利正

取締役常務執行役員  
「グローバル コ・オペレートセンター  
(人事部、総務部)担当」  
兼「秘書室担当」  
兼「監査部担当」  
兼「内部統制・コンプライアンス担当」



#### 長崎 和三

社外取締役  
(独立役員)



#### 堀 裕

社外取締役  
(独立役員)

### 監査役



#### 後藤 博文

常勤監査役



#### 田中 昌利

社外監査役



#### 磯部 康明

社外監査役  
(独立役員)

### 常務執行役員



#### 浜外 剛重

常務執行役員



#### 阿部 裕

常務執行役員



#### 石橋 次郎

常務執行役員



#### 二瓶 勝美

執行役員



#### 濱 学洋

執行役員



#### Robert J. Black Jr.

執行役員



#### 小西 浩樹

執行役員



#### 高橋 喜久雄

執行役員



#### 新田 実

執行役員



#### 松本 潔

執行役員



#### 鈴木 正彦

執行役員



#### 貫井 邦夫

執行役員



#### 中尾 憲二

執行役員



#### 日塔 隆

執行役員

### 執行役員

# JUKIグループのコーポレート・ガバナンス運営体制

コーポレート・ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

## コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、また、ステークホルダーの信頼にお応えするため、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置付け、その整備と充実に努めています。

また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めています。

JUKIの取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しています。また、執行役員制度を導入し、業務執行の円滑化と責任の明確化を図っています。

取締役6名の内、2名を社外取締役とすることで、取締役および取締役会の経営監視機能を高めるとともに、社外からの意見を経営に積極的に取り入れる体制を強化しています。

また、取締役会の下に経営戦略会議を組織し、当社およびグループ会社からなる企業集団に関して、取締役をはじめ担当執行役員や担当部門責任者も出席し、経営に関する基本方針や戦略などについて様々な角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となる体制をとっています。

リスク管理体制としては、リスク管理会議、危機対応タスクフォースを設置しています。

内部監査の組織としては、監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社に対する業務監査を行っています。また監査役監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しています。監査役を補佐する組織としては、監査役室を設置しています。

## コンプライアンス

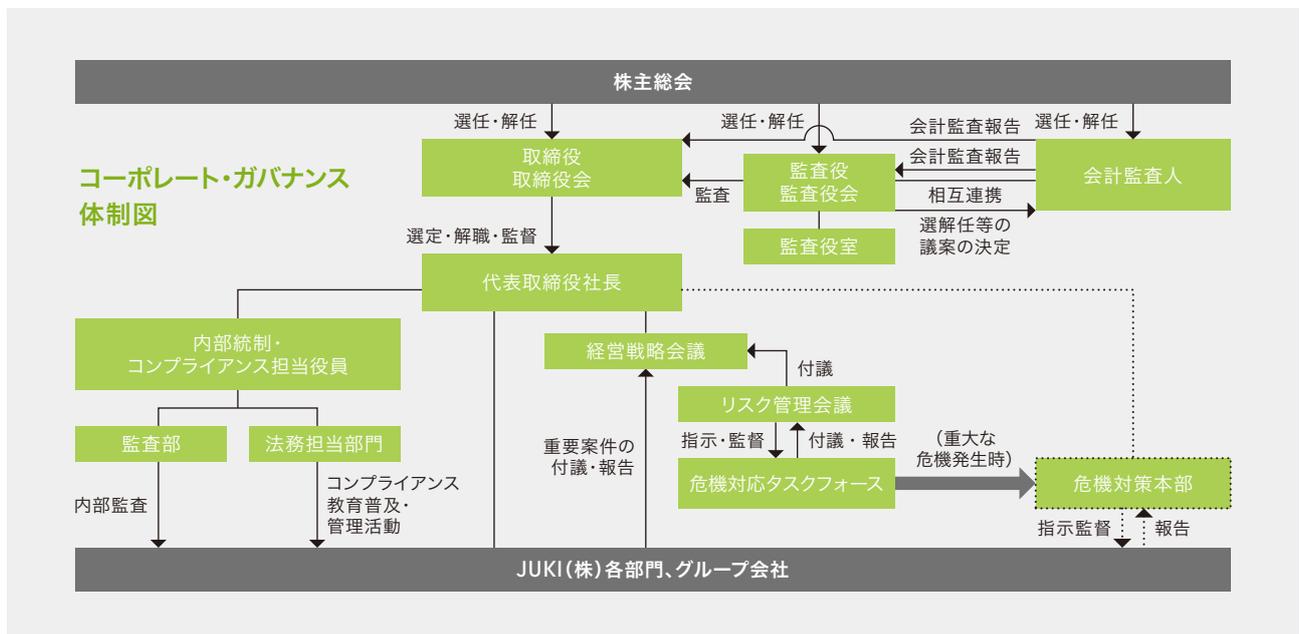
JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置づけています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範「10カ条」」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

## リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議では、全社的リスクおよび重要リスクを管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。

さらに重大な危機が発生した場合には「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応を行います。

JUKIの価値創造



# 財務データ

## 2年間の主要財務データ(連結)

(単位：百万円)

	2016年度 2016年12月期	2017年度 2017年12月期
<b>損益状況 (会計年度)</b>		
売上高	97,724	103,659
（海外売上高比率）	83.7%	83.3%
売上総利益	29,590	31,911
営業利益	4,651	8,156
経常利益	3,022	7,839
親会社株主に帰属する当期純利益	1,883	5,642
設備投資額	1,642	2,312
減価償却費	2,583	2,343
研究開発費	4,408	4,781
<b>財政状態 (事業年度末)</b>		
総資産	111,365	110,554
純資産	27,582	33,343
自己資本	27,005	32,726
<b>財務指標</b>		
自己資本比率	24.2%	29.6%
自己資本当期純利益率	6.9%	18.9%
<b>キャッシュ・フロー状況 (会計年度)</b>		
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,818	10,488
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,046	△1,756
フリーキャッシュ・フロー	8,772	8,732
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,100	△10,373
<b>1株当たり情報</b>		
1株当たり当期純利益 (EPS)	63.94円	192.61円
1株当たり配当金 (DPS)	20円	35円
1株当たり純資産額 (BPS)	921.78円	1,117.07円
<b>非財務データ</b>		
従業員	6,021人	5,899人
海外従業員比率	59.0%	58.2%

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

(単位：百万円)

	2016年度 2016年12月期	2017年度 2017年12月期
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,048	6,407
受取手形及び売掛金	30,741	32,398
商品及び製品	28,412	25,542
仕掛品	3,257	4,062
原材料及び貯蔵品	5,945	7,048
繰延税金資産	1,680	1,116
その他	2,378	2,925
貸倒引当金	△ 399	△ 397
流動資産合計	80,066	79,102
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,890	12,452
機械装置及び運搬具（純額）	2,755	3,211
工具、器具及び備品（純額）	967	1,044
土地	6,523	6,459
リース資産（純額）	325	338
建設仮勘定	49	38
有形固定資産合計	23,512	23,545
無形固定資産	1,711	1,672
投資その他の資産		
投資有価証券	3,018	3,225
長期貸付金	424	2
長期前払費用	306	248
繰延税金資産	1,021	887
退職給付に係る資産	874	1,171
その他	2,379	2,311
貸倒引当金	△ 1,951	△ 1,612
投資その他の資産合計	6,074	6,234
固定資産合計	31,298	31,451
資産合計	111,365	110,554

	2016年度 2016年12月期	2017年度 2017年12月期
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,972	14,049
短期借入金	43,144	34,548
リース債務	109	98
未払金	1,400	1,132
未払費用	3,297	3,537
未払法人税等	409	666
賞与引当金	15	16
設備関係支払手形	61	164
為替予約	1,811	242
その他	1,031	1,132
流動負債合計	61,254	55,589
固定負債		
長期借入金	16,647	15,668
リース債務	256	237
役員退職慰労引当金	69	61
退職給付に係る負債	5,163	5,207
その他	390	446
固定負債合計	22,528	21,621
負債合計	83,782	77,211
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,035	2,035
利益剰余金	8,937	13,994
自己株式	△ 605	△ 606
株主資本合計	28,412	33,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	839	1,016
為替換算調整勘定	△ 2,274	△ 1,966
退職給付に係る調整累計額	28	208
その他の包括利益累計額合計	△ 1,406	△ 742
非支配株主持分	576	617
純資産合計	27,582	33,343
負債純資産合計	111,365	110,554

# 財務データ

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2016年度 2016年12月期	2017年度 2017年12月期
売上高	97,724	103,659
売上原価	68,134	71,748
売上総利益	29,590	31,911
販売費及び一般管理費	24,938	23,755
営業利益	4,651	8,156
営業外収益		
受取利息	64	62
受取配当金	131	154
受取手数料	261	223
その他	397	400
営業外収益合計	854	840
営業外費用		
支払利息	1,153	944
為替差損	1,185	93
その他	144	118
営業外費用合計	2,483	1,157
経常利益	3,022	7,839
特別利益		
固定資産売却益	441	39
特別利益合計	441	39
特別損失		
固定資産除売却損	125	47
投資有価証券評価損	6	—
減損損失	105	—
関係会社株式評価損	55	—
事業再編損	—	102
特別退職金	80	—
その他	—	0
特別損失合計	373	151
税金等調整前当期純利益	3,090	7,727
法人税、住民税及び事業税	1,333	1,319
過年度法人税等	84	—
法人税等調整額	34	709
法人税等合計	1,453	2,029
当期純利益	1,637	5,697
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△ 246	54
親会社株主に帰属する当期純利益	1,883	5,642

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2016年度 2016年12月期	2017年度 2017年12月期
当期純利益	1,637	5,697
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	177
為替換算調整勘定	△ 1,156	318
退職給付に係る調整額	△ 105	180
その他の包括利益合計	△ 1,240	675
包括利益	396	6,373
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	671	6,307
非支配株主に係る包括利益	△ 274	66

# 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2016年度 2016年12月期	2017年度 2017年12月期
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	3,090	7,727
減価償却費	2,583	2,343
減損損失	105	—
事業再編損	—	102
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	174	△ 13
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△ 40	0
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2	44
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△ 8	△ 19
受取利息及び受取配当金	△ 195	△ 216
支払利息	1,153	944
為替差損益 (△は益)	△ 238	△ 199
有形及び無形固定資産除売却損益 (△は益)	△ 316	8
関係会社株式評価損	55	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△ 581	△ 1,520
たな卸資産の増減額 (△は増加)	3,067	1,157
仕入債務の増減額 (△は減少)	128	3,989
割引手形の増減額 (△は減少)	△ 161	△ 50
その他	3,570	△ 1,952
小計	12,388	12,348
利息及び配当金の受取額	195	211
利息の支払額	△ 1,154	△ 944
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 1,611	△ 1,125
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,818	10,488
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 1,727	△ 2,141
有形及び無形固定資産の売却による収入	750	202
投資有価証券の取得による支出	△ 153	△ 0
貸付金の回収による収入	8	78
その他	75	105
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,046	△ 1,756
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△ 1,417	△ 7,288
長期借入れによる収入	7,195	8,611
長期借入金の返済による支出	△ 11,835	△ 10,633
自己株式の取得による支出	△ 539	△ 0
配当金の支払額	△ 743	△ 584
セールアンド割賦バック債務返済による支出	△ 526	△ 173
その他	△ 234	△ 303
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8,100	△ 10,373
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 450	83
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	221	△ 1,557
現金及び現金同等物の期首残高	7,671	7,892
現金及び現金同等物の期末残高	7,892	6,335

# JUKIのグローバル拠点

(2018年6月1日現在)



① ④ ① ② ① ②  
 JUKI 株式会社  
 JUKI オートメーションシステムズ株式会社  
 JUKI 販売株式会社  
 JUKI ゼネラルサービス株式会社  
 JUKI 家庭製品お客様センター株式会社



④ ③  
 JUKI 株式会社大田原工場



① ②  
 JUKI 産機テクノロジー株式会社



⑦ ⑤  
 JUKI 松江株式会社



⑧ ⑥  
 重機(上海)工業有限



⑨  
 新興重機工業有限

## 製造拠点

### 日本

- ① JUKI 産機テクノロジー株式会社 秋田県横手市 チップマウント等の製造、グループ事業関連のユニット・部品製造
- ② JUKI 会津株式会社 福島県喜多方市 ロストワックス・MIM 製法部品の製造
- ③ 株式会社鈴木精密工業所 新潟県長岡市 グループ事業関連の部品製造
- ④ JUKI 株式会社大田原工場 栃木県大田原市 工業用ミシンの製造
- ⑤ JUKI 金属株式会社 三重県大台町 グループ事業関連の部品製造
- ⑥ JUKI 広島株式会社 広島県三次市 鋳鉄铸件等の製造
- ⑦ JUKI 松江株式会社 島根県松江市 グループ事業関連の部品製造
- ⑧ JUKI 株式会社 金型・プレス加工部品の製造
- ⑨ 新興重機工業有限 グループ事業関連の部品製造

※ 2017年7月、JUKI電子工業株式会社、JUKI秋田精密株式会社、JUKI吉野工業株式会社は統合し、JUKI産機テクノロジー株式会社になりました。

- ⑩ 上海重機ミシン有限 中国・上海 家庭用ミシン等の製造
- ⑪ 重機(寧波)精密機械有限 中国・浙江省 工業用ミシン部品の製造、調達
- ⑫ JUKI ベトナム株式会社 ベトナム・ホーチミン 工業用ミシン等の製造、ロストワックス部品の製造

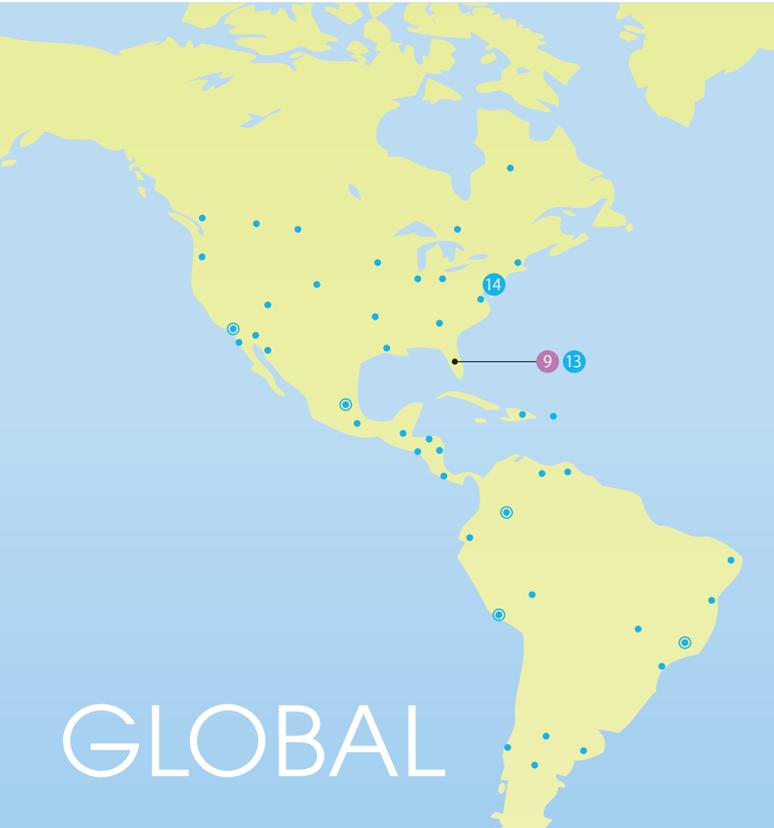
## 開発拠点

### 日本

- ① JUKI 株式会社 東京都多摩市 工業用ミシン、家庭用ミシン、チップマウント等の製品開発、システム開発
- ② JUKI 産機テクノロジー株式会社 秋田県横手市 チップマウント、電子機器等の開発、グループ事業関連の開発
- ③ JUKI 株式会社大田原工場 栃木県大田原市 工業用ミシンの開発
- ④ JUKI オートメーションシステムズ株式会社 東京都多摩市 チップマウント等の開発
- ⑤ JUKI 松江株式会社 島根県松江市 工業用ミシンの開発

### 海外

- ⑥ 重機(上海)工業有限 中国・上海 工業用ミシンの開発
- ⑦ JUKI ベトナム株式会社 ベトナム・ホーチミン 工業用ミシンの開発
- ⑧ JUKI セントラルヨーロッパ株式会社 ポーランド・ワルシャワ 工業用ミシンの開発
- ⑨ JUKI アメリカ株式会社 アメリカ・フロリダ 工業用ミシンの開発



# GLOBAL



# JAPAN



10 上海重機ミシン(有)      12 7 JUKI ベトナム(株)      3 4 重機(中国)投資(有)      6 JUKI シンガポール(株)      8 11 JUKI セントラルヨーロッパ(株)      9 13 JUKI アメリカ(株)      14 JUKI オートメーションシステムズINC

## 販売拠点

### 日本

- ① JUKI オートメーションシステムズ(株) 東京都多摩市      チップマウンタ等の販売
- ② JUKI 販売(株) 東京都多摩市      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- ◎ 支店/営業所/サービスセンター 等

### 海外

- ③ 重機(中国)投資(有) 中国・上海      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
持株会社・中国拠点統括
- ④ 東京重機国際貿易(上海)(有) 中国・上海      チップマウンタ等の販売
- ⑤ JUKI 香港(株) 中国・香港      工業用ミシン等の販売
- ⑥ JUKI シンガポール(株) シンガポール・ベンデミア      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
(主要拠点：インドネシア、カンボジア、ミャンマー他8カ国)
- ⑦ JUKI マシナリー・バングラデシュ(株) バングラデシュ・ダッカ      工業用ミシン等の販売
- ⑧ JUKI マシナリー・ベトナム(株) ベトナム・ホーチミン      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- ⑨ JUKI インディア(株) インド・バンガロール      工業用ミシン、チップマウンタ等の販売
- ⑩ JUKI SMT アジア(株) タイ・チョンブリ      チップマウンタ等の販売
- ⑪ JUKI セントラルヨーロッパ(株) ポーランド・ワルシャワ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
(その他拠点：トルコ、ロシア、ベラルーシ)
- ⑫ JUKI イタリア(株) イタリア・ミラノ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売
- ⑬ JUKI アメリカ(株) アメリカ・フロリダ      工業用ミシン、家庭用ミシン等の販売  
(その他拠点：ペルー、メキシコ)

- ⑭ JUKI オートメーションシステムズINC アメリカ・ノースカロライナ      チップマウンタ等の販売
- ⑮ JUKI オートメーションシステムズGMBH ドイツ・ニュルンベルク      チップマウンタ等の販売
- ◎ JUKI直営の支店/営業所/サービスセンター 等
- 主な代理店

## その他拠点

### 日本

- ① JUKI ゼネラルサービス(株) 東京都多摩市      ビル管理・リフォーム・印刷他サービス
- ② JUKI 家庭製品お客様センター(株) 東京都多摩市      家庭用ミシンのサービス対応

## 主要拠点数

	日本	海外	合計
● 製造	7	5	12
● 開発	5	4	9
● 販売	2	13	15
● その他	2	0	2

データセクション

# 会社概要および株式情報

(2017年12月31日現在)

## 会社データ

商号	JUKI株式会社
創立	1938年12月15日
代表者	代表取締役社長 清原 晃
資本金	180億4,471万円
主要事業所	本社： 〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1 Tel 042-357-2211 大田原工場： 〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863 Tel 0287-23-5111
決算期	12月31日
定時株主総会	3月
従業員	5,899名(連結)、894名(単体)
連結子会社	27社

## 企業理念

### 企業理念

1. JUKIは、ここに集い、人々のしあわせを実現し、社会に貢献する
1. JUKIは、技術を創造し、進化させ、新しい価値を生み出す

### 経営基本方針

1. 総合品質経営を推進する
1. イノベティブ(革新的)で活気のある人と組織をつくる
1. 国際社会に適合する経営を行う

### コーポレートスローガン

Mind & Technology

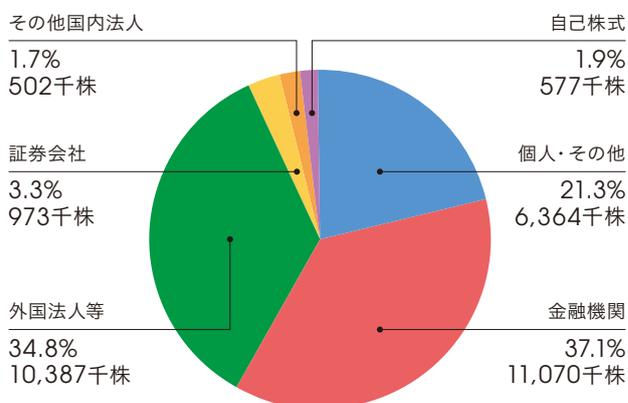
## 編集方針

JUKIコーポレートレポート2018は、会社案内と環境報告書の要素を中心に1冊に統合した報告書です。今回発行するレポートでは、当社グループの事業や価値創造について、お客様や株主・投資家をはじめステークホルダーの皆様にご理解いただくため、内容を拡充してお届けします。

## 株式の状況

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式総数	29,874,179株
株主数	8,950名
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部(貸借銘柄)
証券コード	6440
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

## 所有者別株式分布状況



## 見直しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見直しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見直しは、将来の業績を保証するものではなく、さまざまな重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

***Mind & Technology***

# JUKI

JUKI株式会社  
〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1  
TEL 042-357-2211  
<http://www.juki.co.jp>

